

奈良県のがん登録

2014（平成26）年・2015年（平成27）年

平成31年3月

奈良県福祉医療部

は じ め に

本県におけるがんの実態は、昭和 54（1979）年より死亡原因の第 1 位であり、平成 28（2016）年の死亡者数は 4,159 人と、総死亡者数に占める割合は 29.6%となっており、健康寿命日本一を目指す本県にとってがん対策は重要な課題となっています。

本県では、平成 21（2009）年 11 月に策定した「奈良県がん対策推進計画」に引き続き、平成 25（2013）年 3 月には、「第 2 期奈良県がん対策推進計画」を策定し、「がんにならない、がんになっても安心できる奈良県」を基本理念に掲げ、総合的かつ計画的にがん対策を進めてきました。今年度からは、平成 35 年までの 6 年計画である「第 3 期奈良県がん対策推進計画」を策定し、さらなる死亡率の減少を目標に「がんにならない県、日本一」を目指して、がん対策を推進して参ります。

がんの実態に即したがん対策を推進するためには、県民のがんの実態を把握することが不可欠であり、平成 24 年 1 月に県庁内にがん登録室を設置し、平成 21（2009）年症例分のデータから地域がん登録を開始しました。

本書は、平成 26（2014）年及び平成 27（2015）年の本県の地域がん登録のデータを集計したものです。

がん診療連携拠点病院をはじめとする届出医療機関の皆様のご理解とご協力により、平成 24（2012）年から登録精度が国際基準となり、正確なデータの蓄積ができております。

また、平成 28（2016）年 1 月から全国がん登録が法制化（「がん登録等の推進に関する法律」）され、日本でがんと診断されたすべての人のデータを、国で一つにまとめ集計・分析・管理が出来るようになりました。そのため地域がん登録としての報告はこれが最後となります。しかし、今後も引き続き精度の高いデータを蓄積・収集し、がん種別や地域の実情に応じたがん対策が実現できるよう、データ分析を進めていきます。

本書が関係各方面の皆様方に幅広く活用され、がん対策の一助となれば幸いです。

目 次

I 奈良県地域がん登録事業の概要	1
1 目的.....	1
2 概要.....	1
II 最新がん統計	2
1 本報告書の集計について.....	2
2 罹患の状況.....	6
(1) 罹患の概要.....	6
(2) 年齢別に見たがんの罹患.....	7
(3) 奈良県のがんの罹患の特徴.....	14
3 受療状況.....	17
(1) 発見経緯.....	17
(2) 病期.....	18
(3) 初回治療の方法.....	20
4 死亡の状況.....	22
(1) 死亡の概要.....	22
(2) 年齢別に見たがんの死亡.....	23
(3) 奈良県のがんの死亡の特徴.....	27

付 表

地域がん登録標準集計表目次	30
表 1-A 罹患数、罹患割合(%)、粗罹患率、年齢調整罹患率(人口 10 万対)及び累積罹患率(人口 100 対): 部位別、性別.....	31
表 1-B " (上皮内がんを含む).....	33
表 2-A 年齢階級別罹患数、罹患割合(%) : 部位別、性別.....	35
表 2-B " (上皮内がんを含む).....	37
表 3-A 年齢階級別罹患率(人口 10 万対): 部位別、性別.....	39
表 3-B " (上皮内がんを含む).....	41
表 4-A 発見経緯(%) : 部位別.....	43
表 4-B " (上皮内がんを含む).....	45
表 5-1-A 進展度・総合(%) : 部位別.....	47
表 5-1-B " (上皮内がんを含む).....	49
表 5-2-A 進展度・治療前(%) : 部位別.....	51
表 5-2-B " (上皮内がんを含む).....	53
表 5-3-A 進展度・術後(%) : 部位別.....	55
表 5-3-B " (上皮内がんを含む).....	57
表 6-A 受療割合(%) : 部位別.....	59
表 6-B " (上皮内がんを含む).....	61
表 7-A 観血的治療の範囲(%) : 部位別.....	63
表 7-B " (上皮内がんを含む).....	65
表 8-A 精度指標: 部位別、性別.....	67
表 8-B " (上皮内がんを含む).....	69

表 9	死亡数、死亡割合（％）、粗死亡率、年齢調整死亡率（人口 10 万対） 及び累積死亡率（人口 100 対）：部位別、性別.....	71
表 10	年齢階級別死亡数、死亡割合（％）：部位別、性別.....	73
表 11	年齢階級別死亡率（人口 10 万対）：部位別、性別.....	75
付表 1	がん罹患数及び罹患率：詳細部位別、性別.....	77
付表 2	がん死亡数及び死亡率：詳細部位別、性別.....	81
付表 3-A	受療割合詳細（％）：部位別.....	85
付表 3-B	〃 （上皮内がんを含む）.....	87
付表 4-A	医療圏別、保健所別罹患数：部位別、性別.....	89
付表 4-B	〃 （上皮内がんを含む）.....	91
付表 5-A	市区町村別罹患数：部位別、性別.....	93
付表 5-B	〃 （上皮内がんを含む）.....	97

参考資料

□	用語の定義.....	101
□	人口統計と死亡統計.....	103
□	悪性新生物の分類と病期分類.....	104
□	罹患数の集計方法と登録精度指標.....	108
□	事業報告.....	110
□	奈良県地域がん登録関係要綱.....	113
□	奈良県がん対策推進協議会・部会 委員名簿 （平成 3 1 年 3 月現在）.....	128

I 奈良県地域がん登録事業の概要

1 目的

奈良県地域がん登録事業は、奈良県内に住所を有する者を対象に、がん患者の発症、死亡及び医療状況の実態を把握することにより、がんの罹患率の測定、がん患者の受療状況、生存率の算出等を行い、本県におけるがん対策の推進と医療水準の向上に資するとともに、県民の健康増進に寄与することを目的としている。

2 概要

○実施主体及び運営主体

奈良県が実施主体である。地域がん登録室（以下「登録室」という。）は、平成 24（2012）年 1 月から奈良県医療政策部保健予防課内に設置。平成 30（2018）年 4 月より組織改編のため奈良県福祉医療部医療政策局疾病対策課内に設置。

○登録対象者

この事業の対象となる者は、奈良県内に住所を有する者であって、がんと診断された者及びがんにより死亡した者とする。

○情報収集

がんの診断、治療等に関する情報は、2009 年の罹患症例から奈良県内の医療機関より収集している。

県内の医療機関は、県が定めた届出票に必要事項を記載し、登録室に提出する。なお、がん診療連携拠点病院等、院内がん登録を実施している医療機関は、院内がん登録のデータを地域がん登録用に出力した届出票及び磁気媒体を登録室に提出する。

がんによる死亡情報は、厚生労働大臣に人口動態調査に係る調査票情報の提供について申出を行い、保健所から収集している。県内の保健所は、人口動態調査死亡小票を転写したものを登録室に提供する。

がんによる死亡で、県への届出がない症例については、死亡診断をした医療機関に対し、遡り調査（届出を促す調査）を実施し、結果を登録する。

がんと診断された年から 5 年が経過した時点において、死亡情報を把握していない症例については、生存確認調査を実施する。

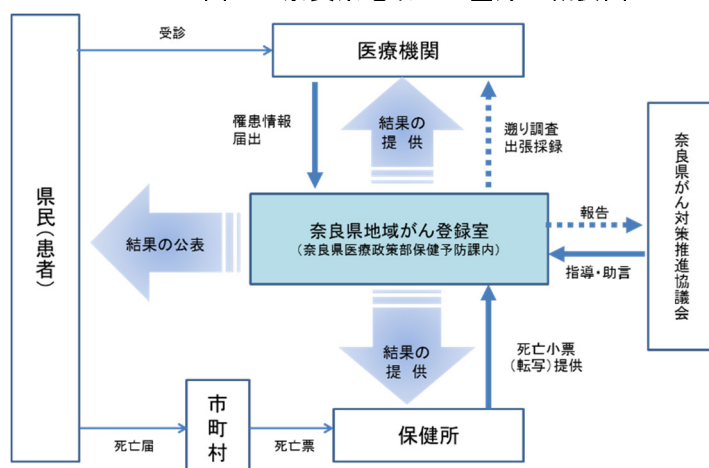
届出票の主な収集項目は、個人識別情報（漢字姓名、生年月日、性別、住所）、腫瘍情報（診断日、原発部位、病理組織型、病期等）、治療情報（治療方法、転帰、死亡日）である。

○登録・集計

独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターが提供する「地域がん登録標準データベースシステム」により、集計・分析を行っていた。

平成 28 年 1 月からは、「がん登録等の推進に関する法律」に基づき、「全国がん登録データベースシステムによる全国がん登録」を実施。地域がん登録については、同システム内の「都道府県がん登録データベースシステム」を利用し、継続している。

図 1 奈良県地域がん登録の概要図



Ⅱ 最新がん統計

1 本報告書の集計について

○集計期間

罹患年月日が 2014（平成 26）年 1 月 1 日から 2015（平成 27）年 12 月 31 日までの 2 年間

○集計時期

2014（平成 26）年集計は 2018（平成 30）年 3 月 2 日現在

2015（平成 27）年集計は 2018（平成 30）年 10 月 9 日現在

○集計対象

①ICD-O-3 分類の性状「2」（上皮内）、「3」（悪性、浸潤性）で示される新生物

②DCO 例については、上記①に加えて、ICD-O-3 分類の性状「1」（良性・悪性の別不詳：例 悪性の明示のない〇〇腫瘍）で示される新生物による死亡のうち、部位が脳であるもの

○罹患年月日の決め方

①届出による登録例は初めて当該がんと診断された年月日を罹患年月日とする。

②届出がなく、死亡小票（転写）によってがん罹患が判明した例は、死亡年月日をもって罹患年月日とする

③遡り調査による届出の罹患日を採用

○本報告書の精度指標

登録罹患数、精度指標及びその関係を表 1 及び図 2 に示した。

なお、奈良県では 2011 年より遡り調査を実施している。

表 1 登録罹患数と精度指標

	罹患年						
	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
罹患数（上皮内がんを除く）	9,284	9,289	9,498	9,817	10,089	10,725	10,861
罹患数（上皮内がんを含む）	9,704	9,807	10,086	10,609	10,936	11,675	12,005
がん死亡数	3,745	4,046	4,061	4,019	4,162	4,077	4,049
DCN（%）	37.1	30.8	23.0	17.0	9.6	7.1	6.0
DCO（%）	37.1	30.8	13.6	5.7	6.3	4.3	3.9
I/M比	2.48	2.30	2.34	2.44	2.42	2.63	2.68
M/I比	0.40	0.44	0.43	0.41	0.41	0.38	0.37
MV（%）	60.3	64.8	75.8	80.0	80.3	81.9	84.2

注）上皮内がんを除く罹患数で DCN 等を計算

DCN：死亡情報で初めて把握された症例 DCO：死亡情報のみの症例

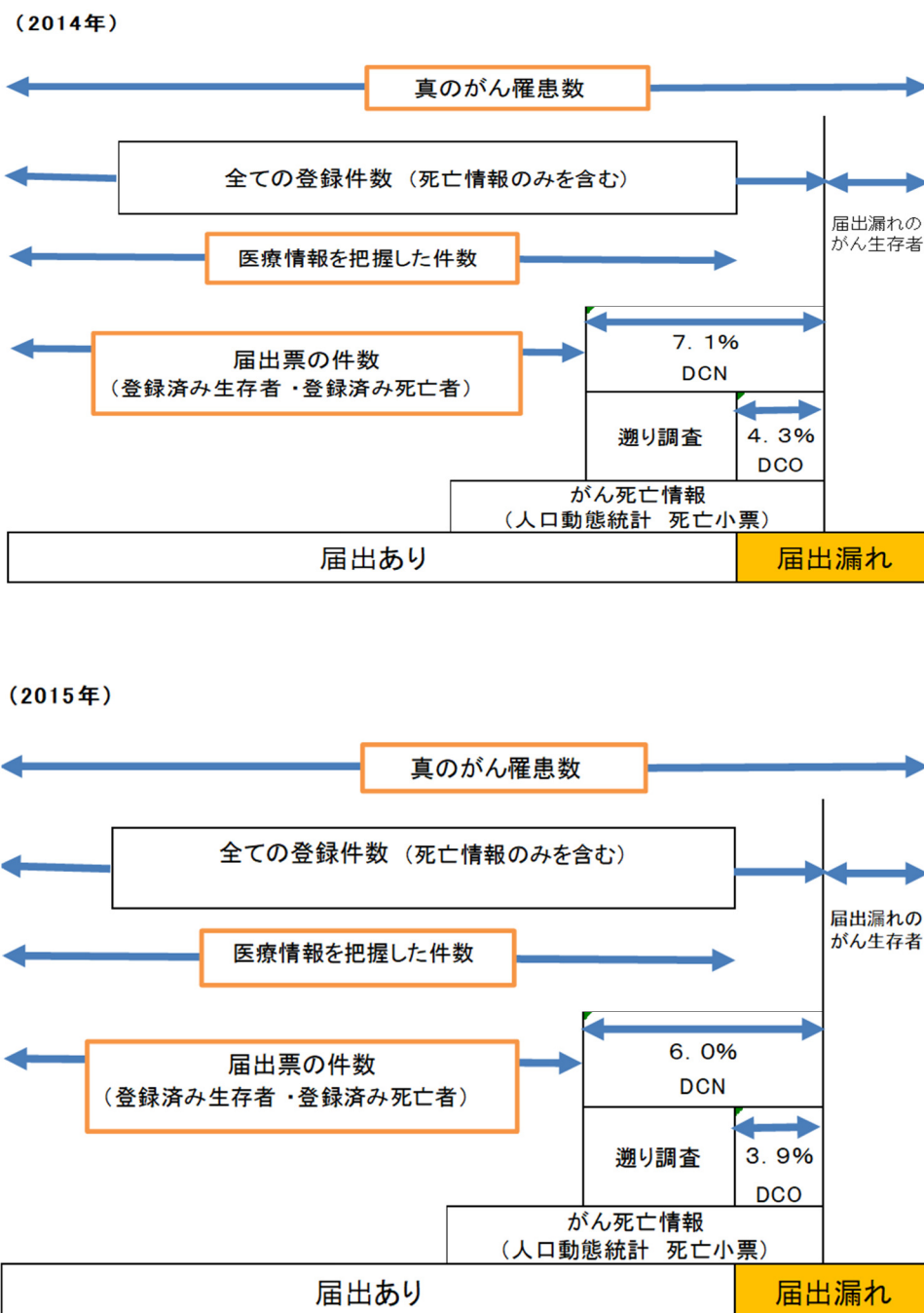
I/M比：罹患/死亡比 M/I比：死亡/罹患比 MV：病理学的裏付けのある症例

○調査対象の人口

2014（平成 26）年の人口は 1,374,588 人（男性 647,692 人、女性 726,896 人）、2015（平成 27）年の人口は 1,367,593 人（男性 643,711 人、女性 723,882 人）である。

（詳細については P103 を参照）

図 2 真のがん罹患数と登録罹患数の関係

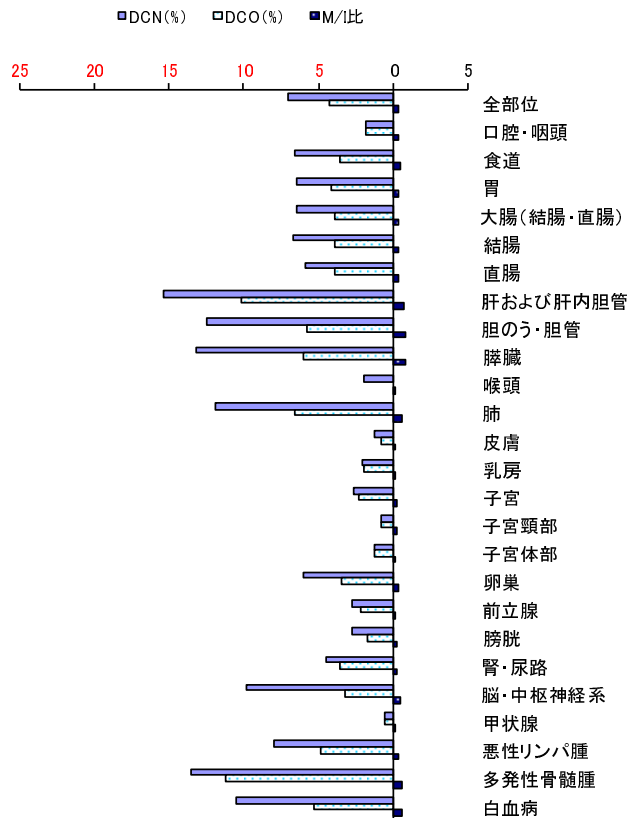


遡り調査：がん罹患していたことが死亡票で初めて把握されたがん患者（DCN の患者）に対して、死亡診断書作成施設に問い合わせ、その患者の罹患情報を得る地域がん登録の調査法
注）集計方法や登録精度指標等については、P108～109 を参照

図3 部位別登録精度 DCN・DCOの割合、M/I比（表8-Aから作成）

（2014年）

部位	DCN(%)	DCO(%)	M/I比
全部位	7.1	4.3	0.4
口腔・咽頭	1.8	1.8	0.3
食道	6.5	3.6	0.4
胃	6.4	4.1	0.4
大腸(結腸・直腸)	6.5	3.9	0.3
結腸	6.8	3.9	0.3
直腸	5.9	4.0	0.3
肝および肝内胆管	15.4	10.2	0.7
胆のう・胆管	12.5	5.8	0.8
膵臓	13.1	6.0	0.8
喉頭	1.9	0.0	0.2
肺	11.9	6.6	0.6
皮膚	1.3	0.9	0.1
乳房	2.0	1.9	0.2
子宮	2.7	2.4	0.2
子宮頸部	0.8	0.8	0.3
子宮体部	1.2	1.2	0.1
卵巣	6.0	3.4	0.4
前立腺	2.7	2.2	0.1
膀胱	2.7	1.7	0.2
腎・尿路	4.5	3.6	0.2
脳・中枢神経系	9.8	3.3	0.4
甲状腺	0.6	0.6	0.1
悪性リンパ腫	8.0	4.9	0.4
多発性骨髄腫	13.5	11.2	0.6
白血病	10.5	5.3	0.6



（2015年）

部位	DCN(%)	DCO(%)	M/I比
全部位	6.0	3.9	0.4
口腔・咽頭	2.0	0.8	0.3
食道	4.5	3.3	0.5
胃	5.3	3.5	0.3
大腸(結腸・直腸)	4.7	3.0	0.3
結腸	5.5	3.5	0.4
直腸	3.0	1.8	0.3
肝および肝内胆管	12.3	7.5	0.7
胆のう・胆管	14.3	10.0	0.7
膵臓	9.6	5.6	0.8
喉頭	5.9	5.9	0.2
肺	11.2	6.9	0.6
皮膚	0.4	0.4	0.1
乳房	1.8	1.7	0.2
子宮	2.5	1.9	0.2
子宮頸部	3.5	2.7	0.2
子宮体部	0.5	0.5	0.1
卵巣	5.2	4.3	0.4
前立腺	1.8	1.3	0.1
膀胱	3.9	3.9	0.3
腎・尿路	4.0	3.1	0.3
脳・中枢神経系	18.2	10.4	0.4
甲状腺	4.3	3.3	0.1
悪性リンパ腫	4.4	2.3	0.3
多発性骨髄腫	8.5	6.1	0.6
白血病	7.0	4.2	0.7

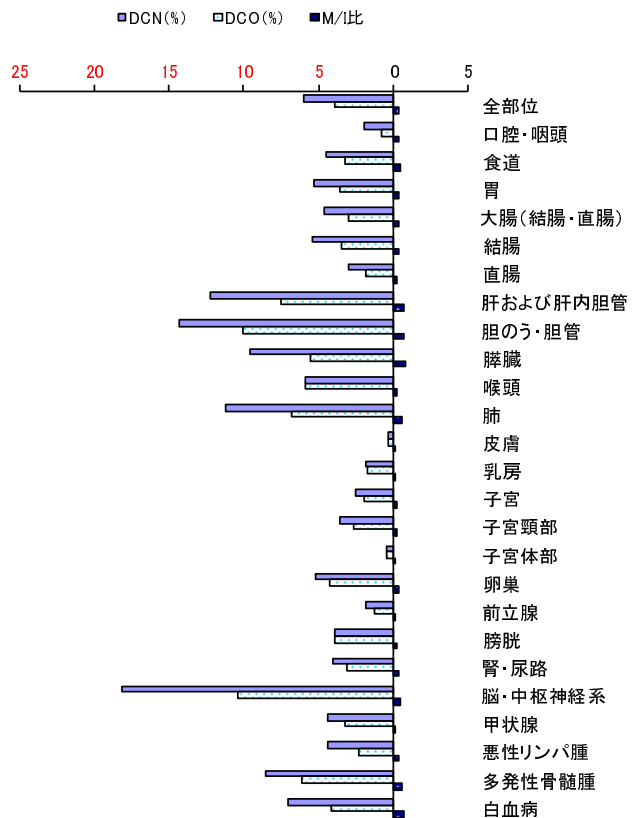
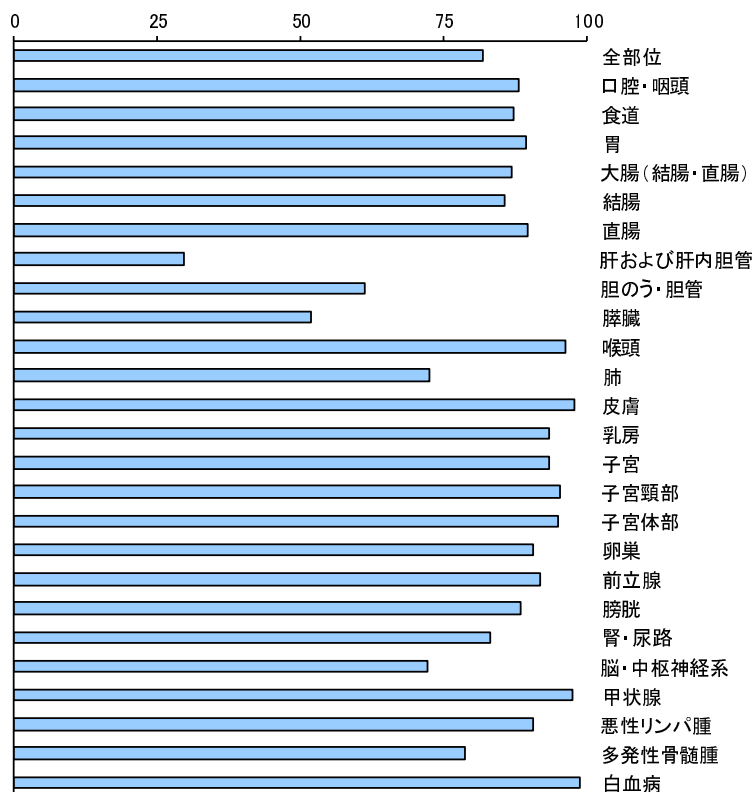


図4 部位別 MVの割合（表8-A から作成）

（2014年）

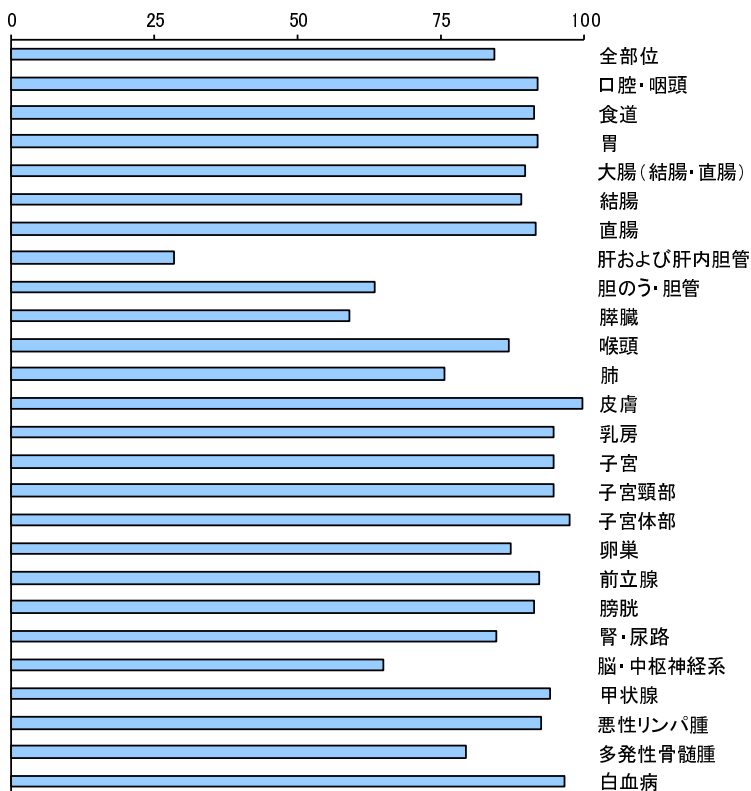
部位	MV(%)
全部位	81.9
口腔・咽頭	88.1
食道	87.3
胃	89.4
大腸（結腸・直腸）	86.9
結腸	85.5
直腸	89.5
肝および肝内胆管	29.7
胆のう・胆管	61.2
膵臓	51.8
喉頭	96.2
肺	72.5
皮膚	97.9
乳房	93.4
子宮	93.2
子宮頸部	95.2
子宮体部	95.1
卵巣	90.6
前立腺	91.8
膀胱	88.4
腎・尿路	83.0
脳・中枢神経系	72.1
甲状腺	97.6
悪性リンパ腫	90.6
多発性骨髄腫	78.7
白血病	98.7



注)上皮内がんを除く

（2015年）

部位	MV(%)
全部位	84.2
口腔・咽頭	91.9
食道	91.1
胃	91.9
大腸（結腸・直腸）	89.8
結腸	88.9
直腸	91.6
肝および肝内胆管	28.3
胆のう・胆管	63.5
膵臓	59.0
喉頭	86.8
肺	75.7
皮膚	99.6
乳房	94.6
子宮	94.6
子宮頸部	94.7
子宮体部	97.4
卵巣	87.1
前立腺	92.2
膀胱	91.1
腎・尿路	84.6
脳・中枢神経系	64.9
甲状腺	94.0
悪性リンパ腫	92.3
多発性骨髄腫	79.3
白血病	96.5



注)上皮内がんを除く

2 罹患の状況

(1) 罹患の概要

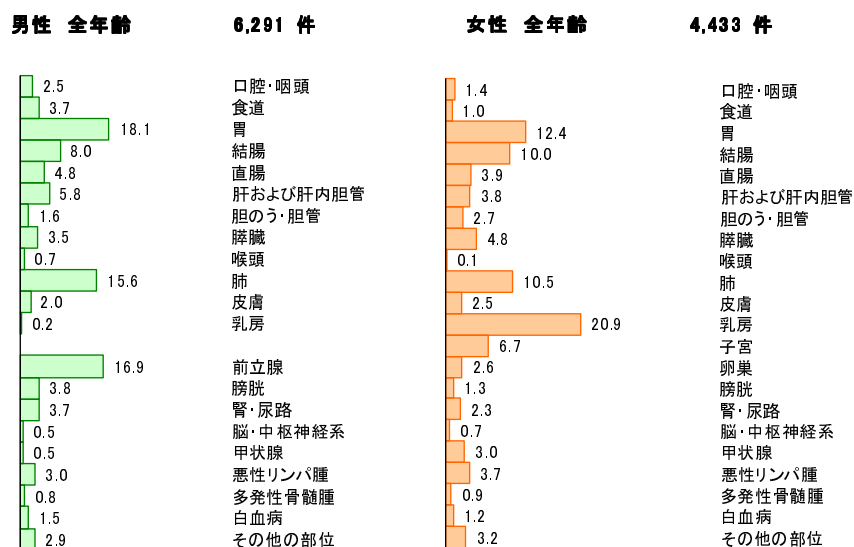
県内に住所を有する者について、新たに診断されたがん（上皮内がんを除く）は、2014 年では男性延べ 6,291 件、女性延べ 4,433 件、合計延べ 10,724 件であった。（P31 表 1 の罹患数 10,725 件のうち 1 名は性別不詳。）2015 年では、男性 6,426 件、女性 4,433 件、合計延べ 10,859 件であった。（P32 表 1 の罹患数 10,861 件のうち 2 名は性別不詳。）

男性の罹患について、2014 年では、最も多いがんは胃がん（18.1%）であり、次いで前立腺がん（16.9%）、肺がん（15.6%）となっている。2015 年も同様に、最も多いがんは胃がん（18.6%）、次いで前立腺がん（17.0%）、肺がん（14.1%）となっている。

女性の罹患について、2014 年では最も多いがんは乳がん（20.9%）であり、次いで胃がん（12.4%）、肺がん（10.5%）となっている。2015 年は、最も多いがんは乳がん（19.9%）、次いで胃がん（12.0%）、結腸がん（11.9%）となっている。（図 5）

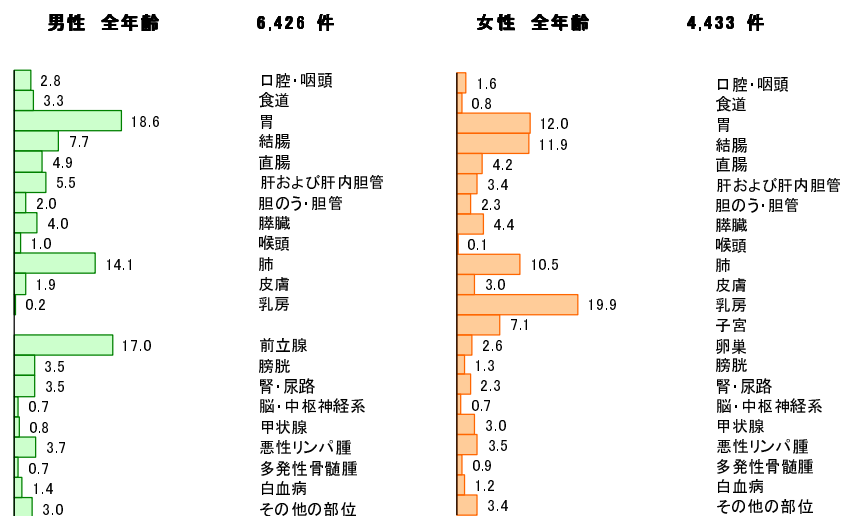
図 5 部位内訳（%）（表 1-A から作成）

(2014年)



注) 上皮内がんを除く

(2015年)



注) 上皮内がんを除く

(2) 年齢別に見たがんの罹患

新たに診断されたがん（上皮内がんを除く）について年齢別にみると、2014 年、2015 年共に、男性では全体の約 4/5、女性では全体の約 2/3 が 65 歳以上である。また、40～64 歳の年齢層についてみると、男性では全体の約 1/5、女性では全体の 3 割を占めていた。（図 6）

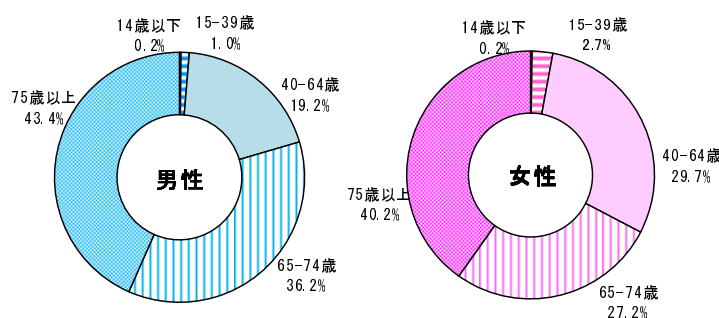
総数では、男性の方が女性よりも多いが、女性の 15～39 歳のがんが男性よりも多いのは、この年齢層の子宮頸がん和乳がんが多いためである。（図 7・図 8）

主な部位別の年齢階級別罹患率では、ほとんどの部位において、年齢が高くなるほど罹患率が高くなっている。但し、女性の乳がんは、30 歳以上から増え始め、65～69 歳で罹患率が最も高くなっている。子宮頸がん（上皮内がんを含む）は 10 代後半から 30 代後半にかけて罹患率の上昇がみられる。子宮体がんは、30 歳代から増え始め、50 歳代で最も多くなっている。（図 8）

図 6 年齢階級別内訳（％）（表 2-A から作成）

(2014 年)

年齢階級	男性(人)
14歳以下	14
15-39歳	65
40-64歳	1,206
65-74歳	2,277
75歳以上	2,729
不明	0
合計	6,291

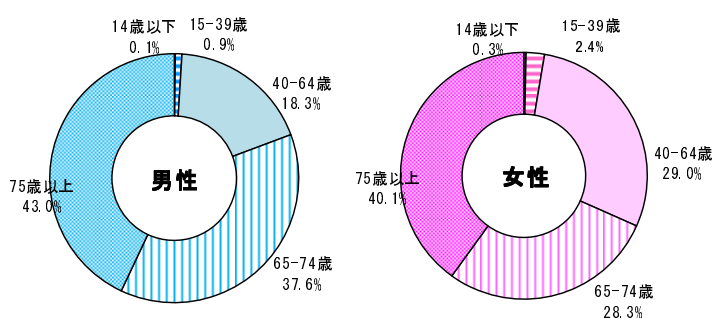


女性(人)	年齢階級
9	14歳以下
119	15-39歳
1,318	40-64歳
1,207	65-74歳
1,780	75歳以上
0	不明
4,433	合計

注) 上皮内がんを除く

(2015 年)

年齢階級	男性(人)
14歳以下	8
15-39歳	57
40-64歳	1,178
65-74歳	2,419
75歳以上	2,764
不明	0
合計	6,426

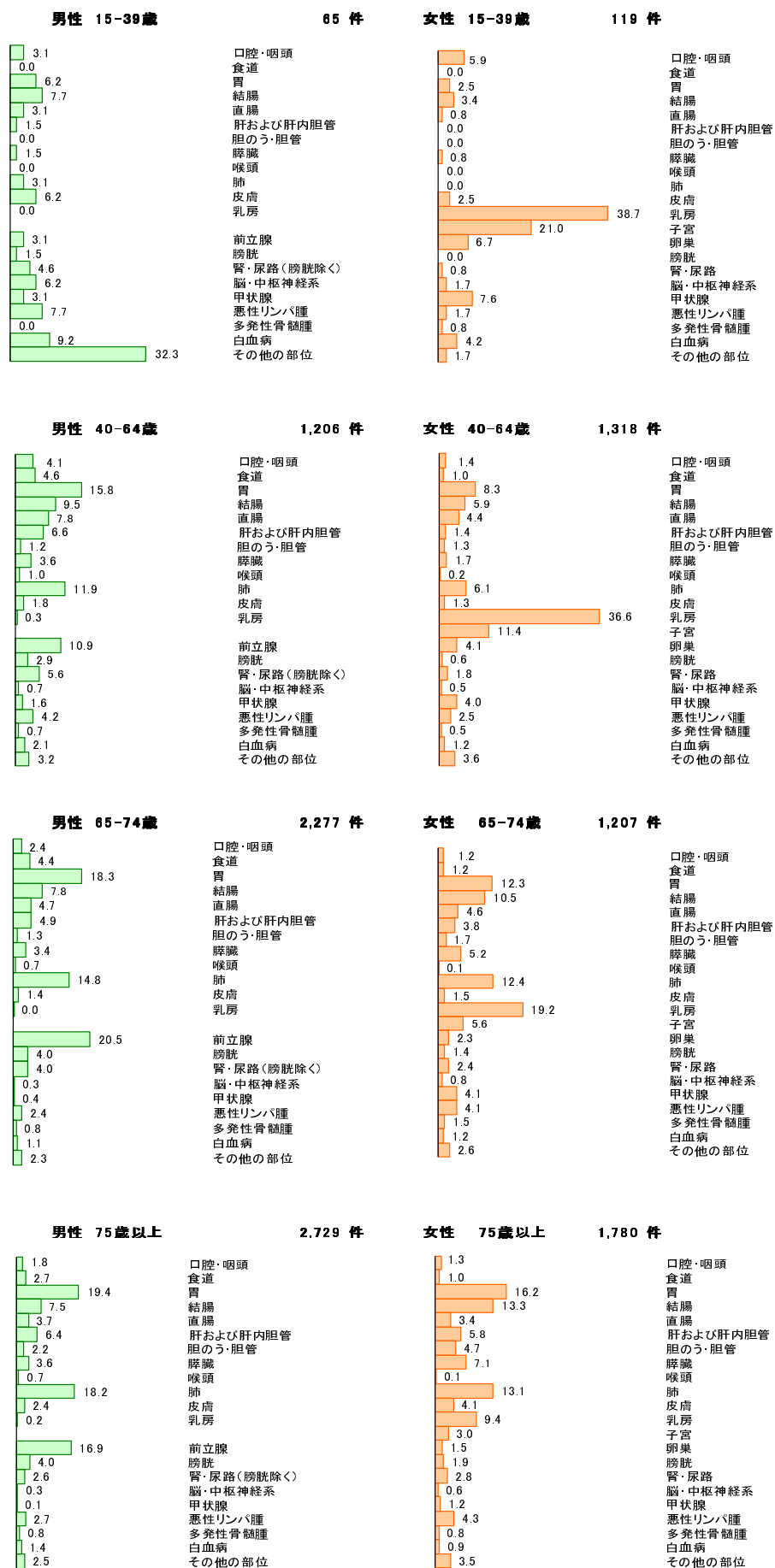


女性(人)	年齢階級
12	14歳以下
107	15-39歳
1,285	40-64歳
1,253	65-74歳
1,776	75歳以上
0	不明
4,433	合計

注) 上皮内がんを除く

図7 年齢別部位内訳 (%) (表 2-A から作成)

(2014年)

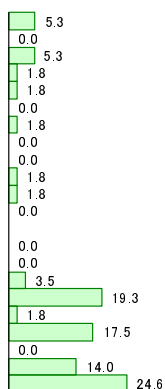


注) 上皮内がんを除く

(2015年)

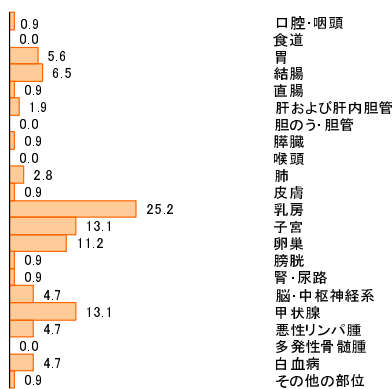
男性 15-39歳

57 件



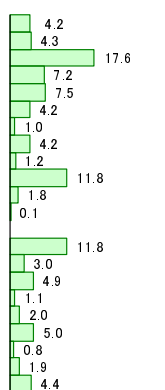
女性 15-39歳

107 件



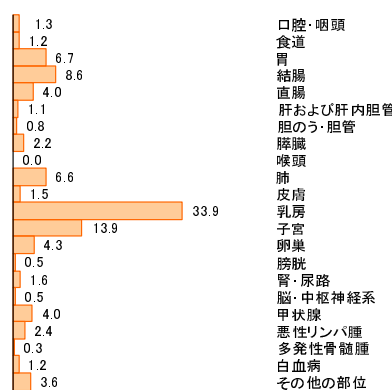
男性 40-64歳

1,178 件



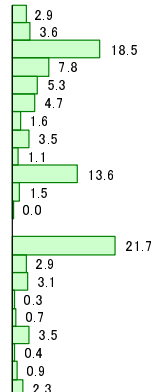
女性 40-64歳

1,285 件



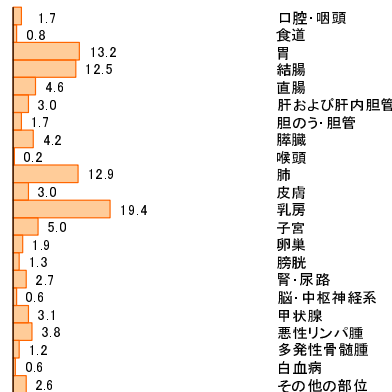
男性 65-74歳

2,419 件



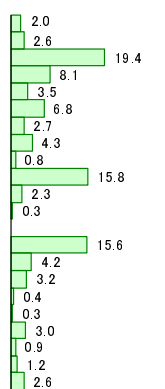
女性 65-74歳

1,253 件



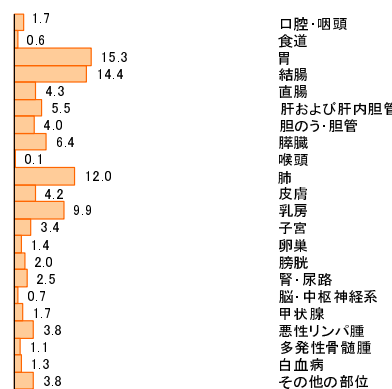
男性 75歳以上

2,764 件



女性 75歳以上

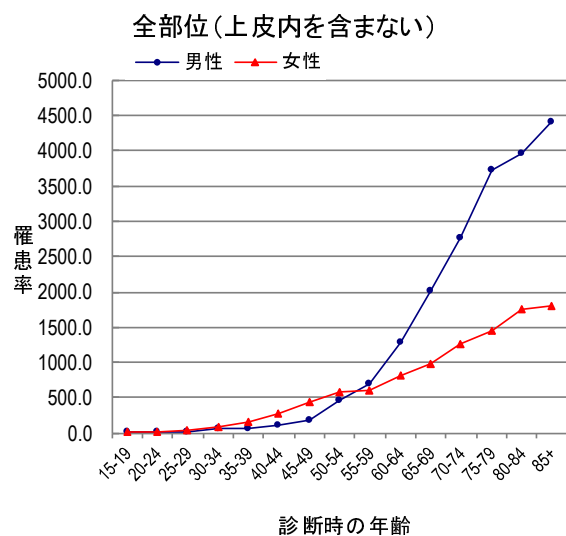
1,776 件



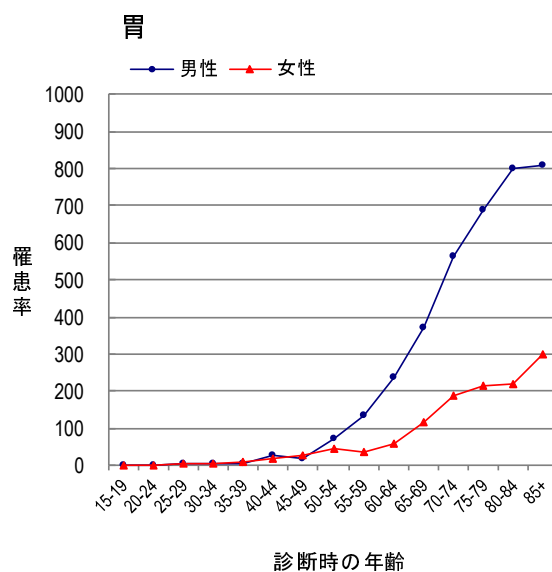
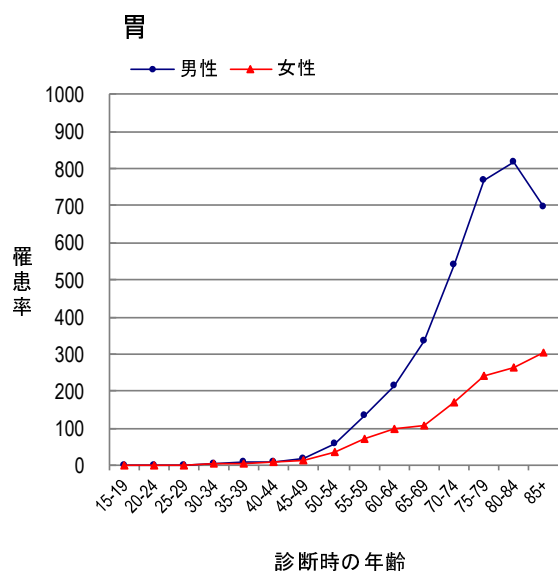
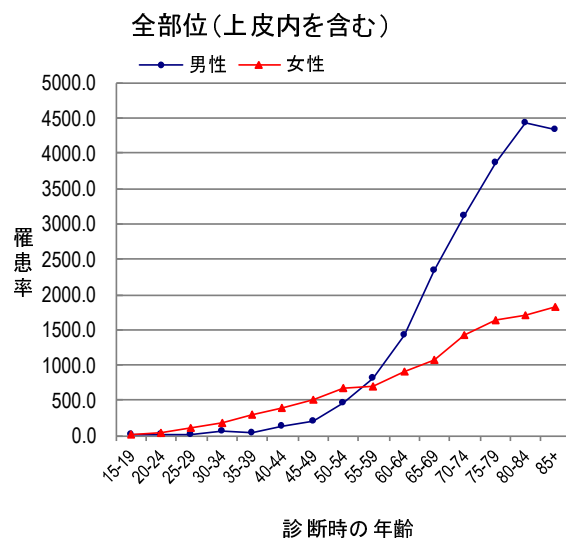
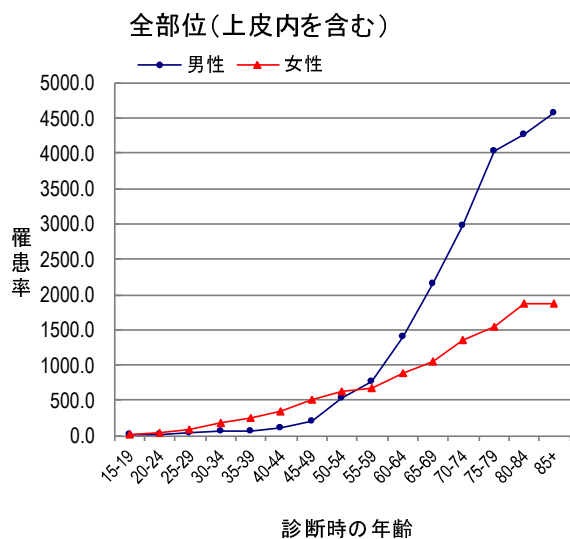
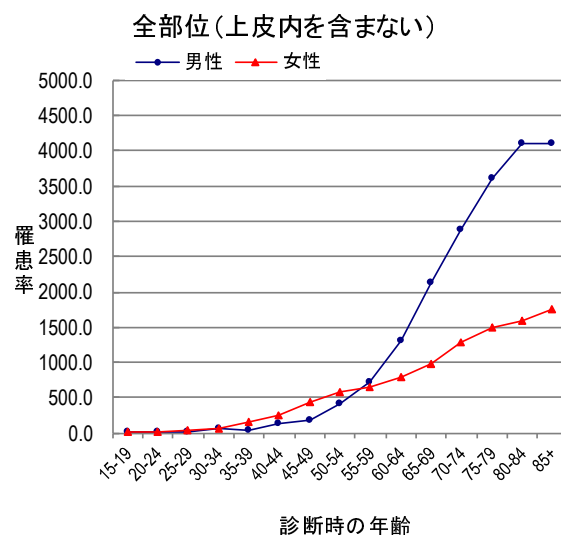
注) 上皮内がんを除く

図8 部位別年齢階級別罹患率：人口10万対（表3-A、Bから作成）

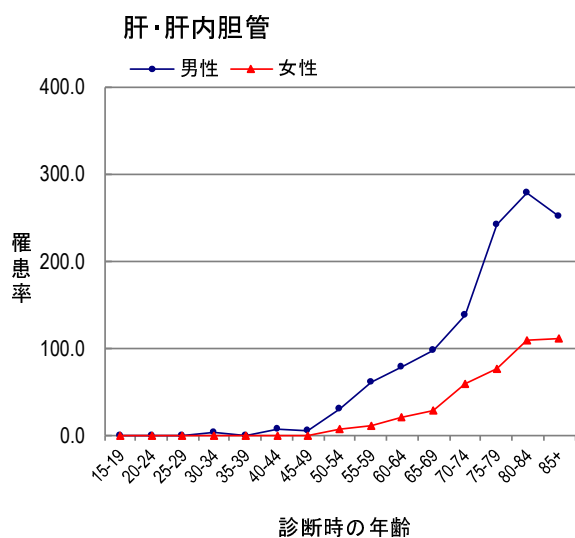
(2014 年)



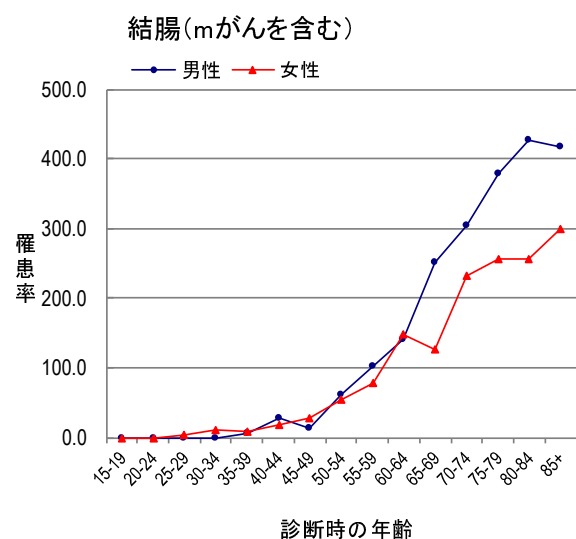
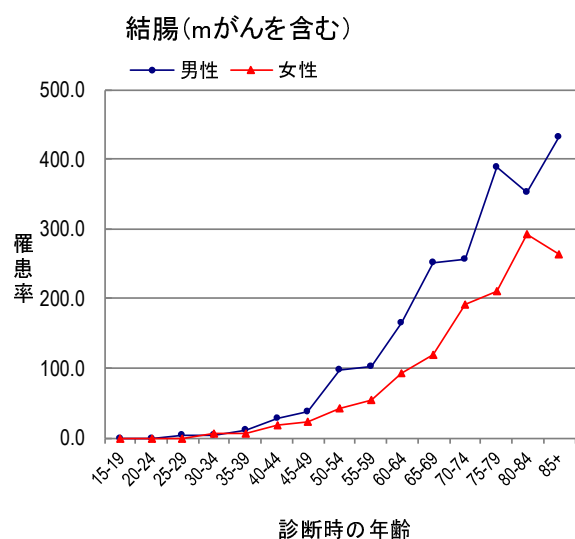
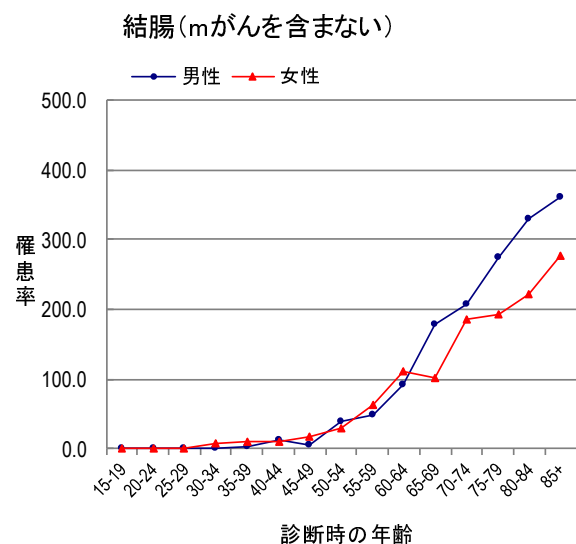
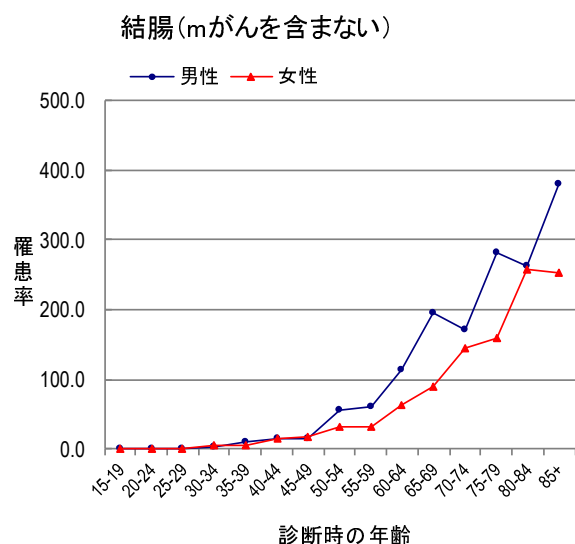
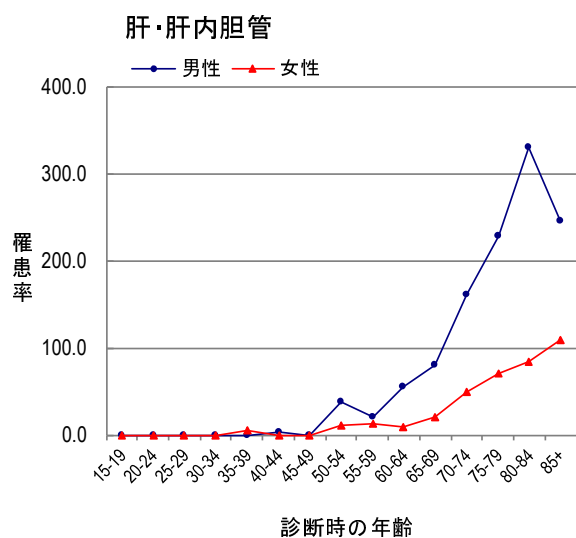
(2015 年)



(2014 年)

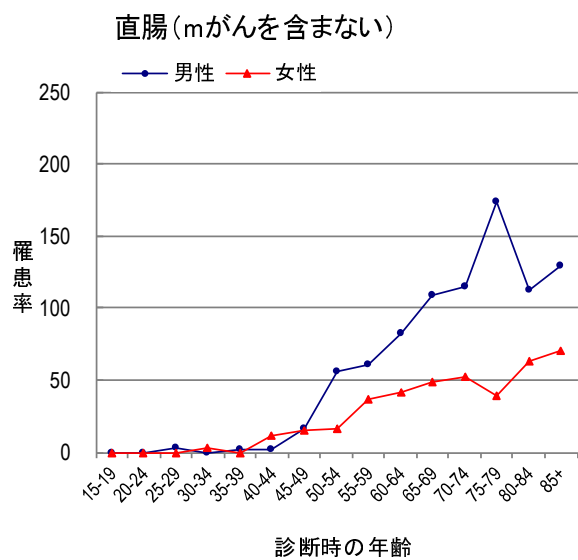


(2015 年)

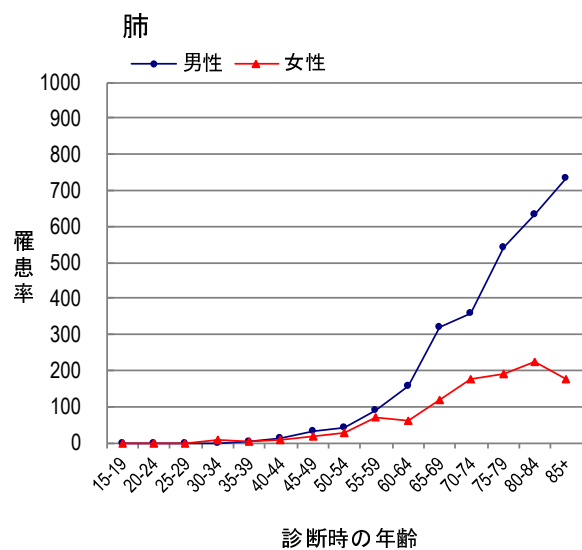
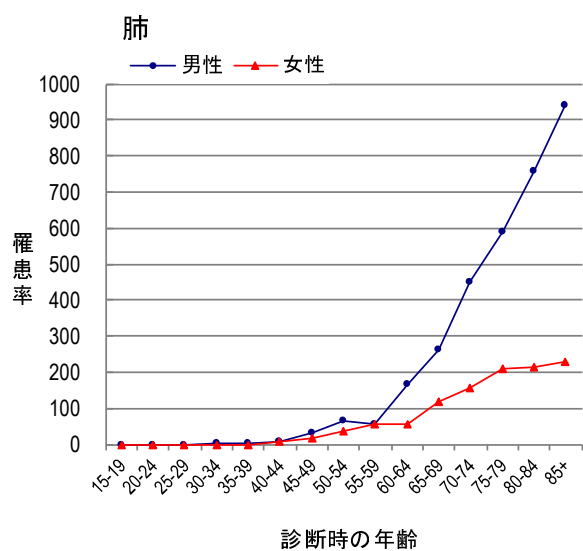
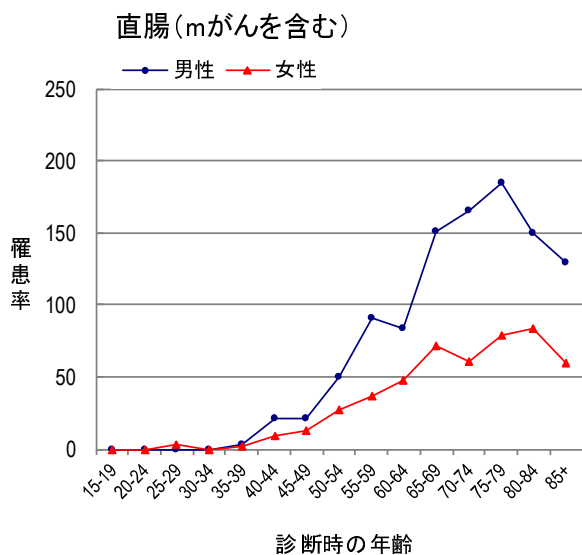
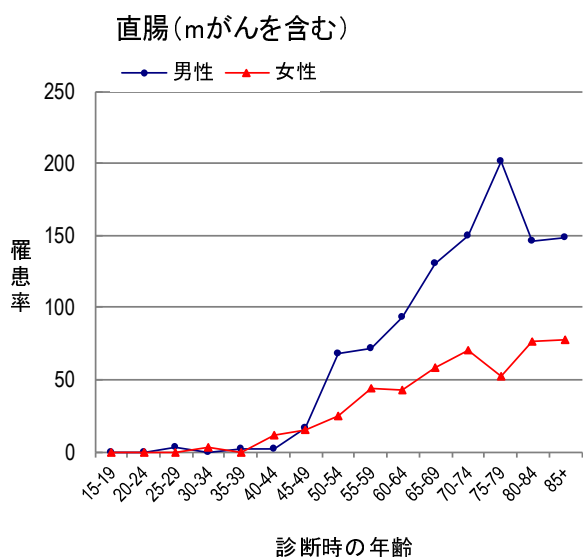
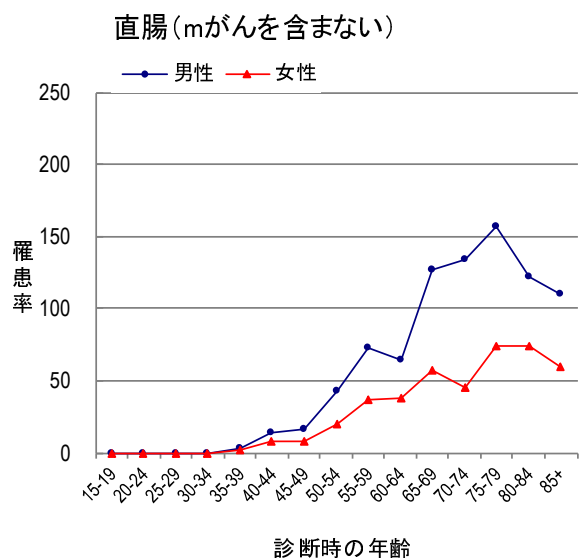


注) mがんについて：我が国の地域がん登録では、大腸（結腸及び直腸）の粘膜内がん（mがん）は上皮内がんとして扱う。

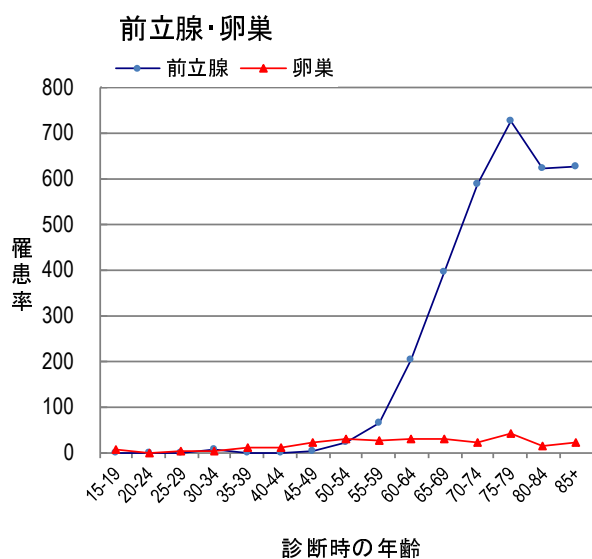
(2014 年)



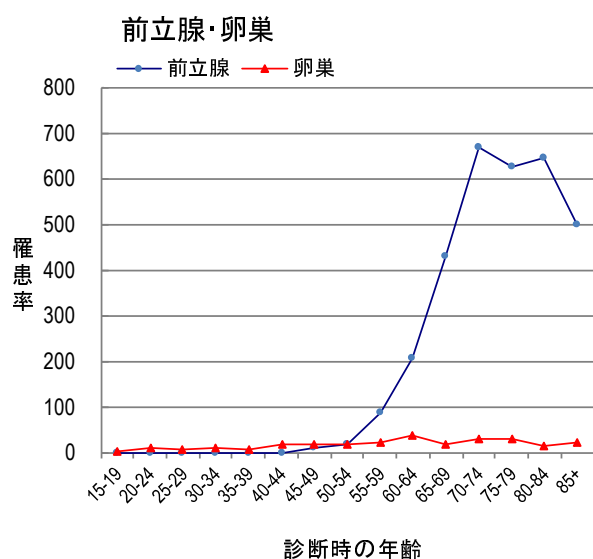
(2015 年)



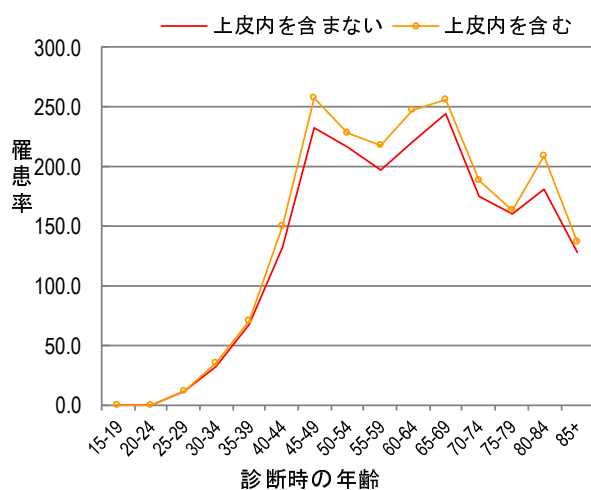
(2014 年)



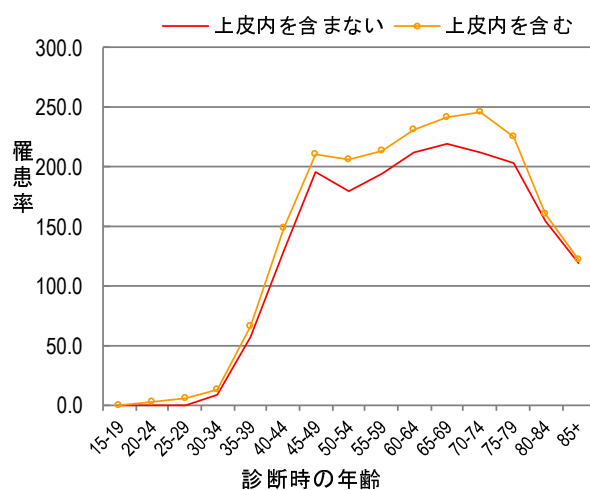
(2015 年)



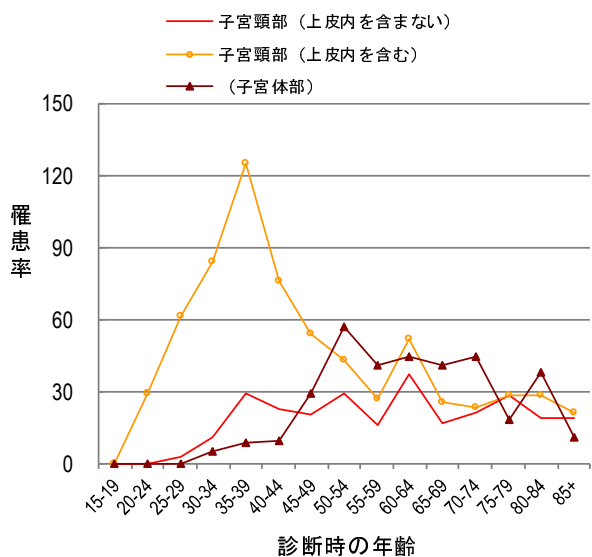
乳房



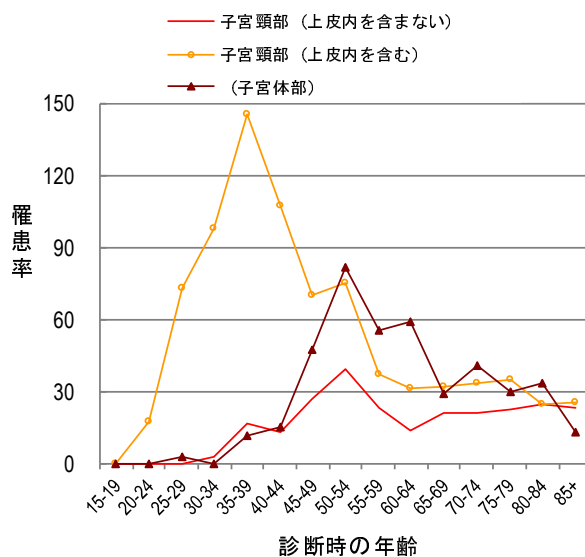
乳房



子宮頸部 ・ 子宮体部



子宮頸部 ・ 子宮体部



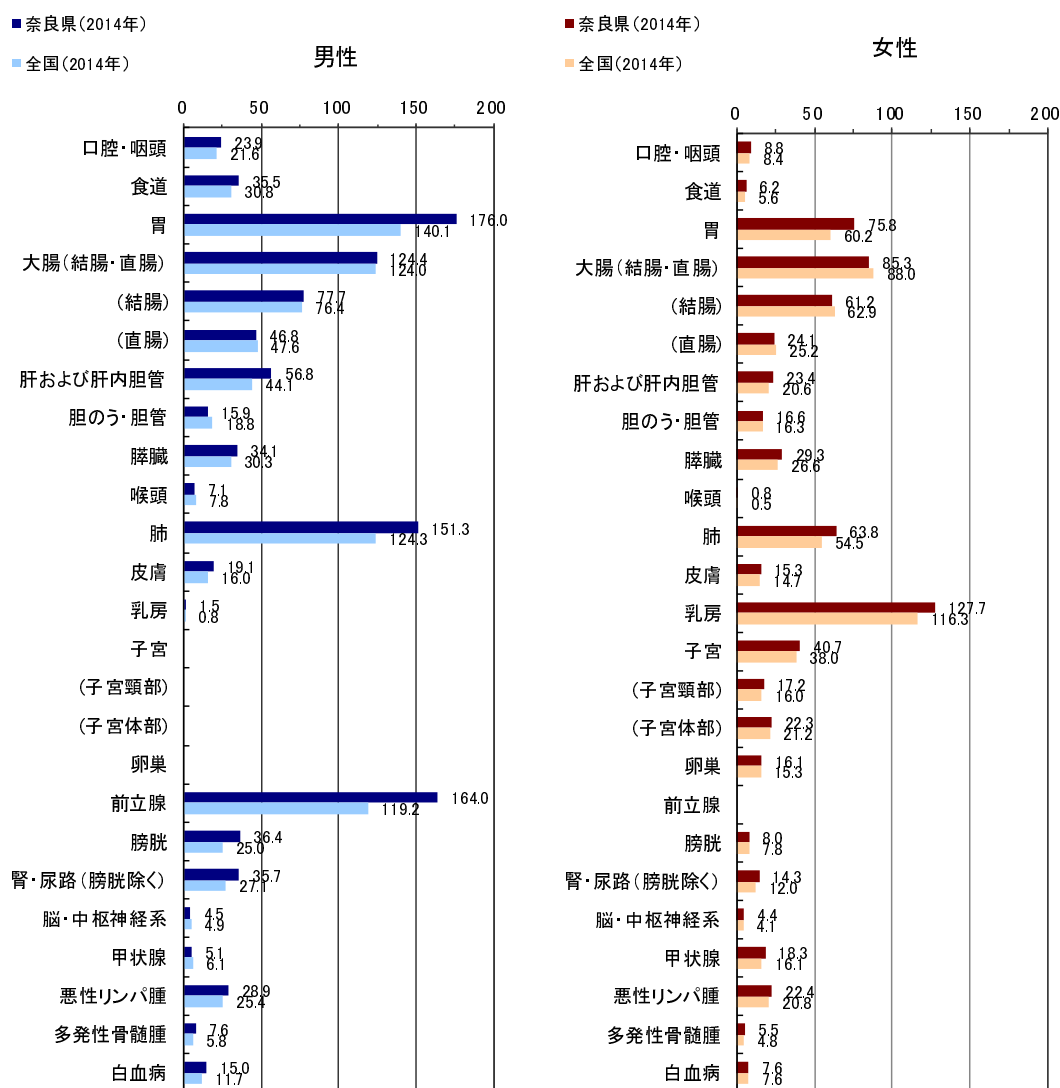
(3) 奈良県のがんの罹患の特徴

2014・2015 年の本県の罹患率と全国の罹患率の推計値を比較したところ、全国推計値とほぼ同じような傾向にあるが、全国推計値と比較して本県の方が罹患率が高い部位の中で差が大きいのは、男性では、2014 年・2015 年共に前立腺がんと胃がんであった。女性では 2014 年・2015 年共に胃がんであった。(図 9)

年齢調整罹患率においても全国値とほぼ同じ傾向にあるが、全国推計値と比較して本県の方が罹患率が高い部位の中で差が大きいのは、男性では 2014 年・2015 年共に前立腺がん・胃がんであり、女性では 2014 年は乳がん・胃がんであり、2015 年は胃がんであった。(図 10)

図 9 部位別がん粗罹患率：人口 10 万対 (表 1-A から作成)

(2014 年)

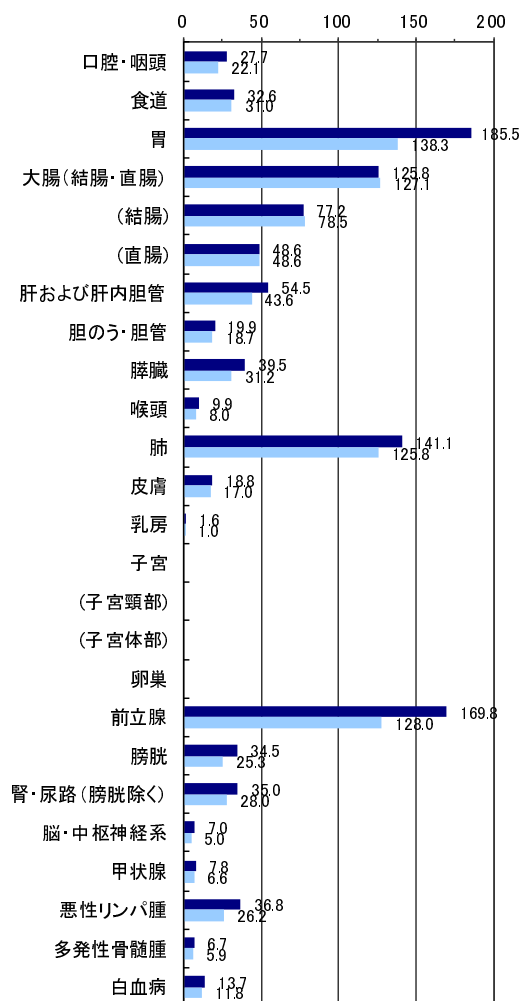


(2015 年)

■ 奈良県(2015年)

■ 全国(2015年)

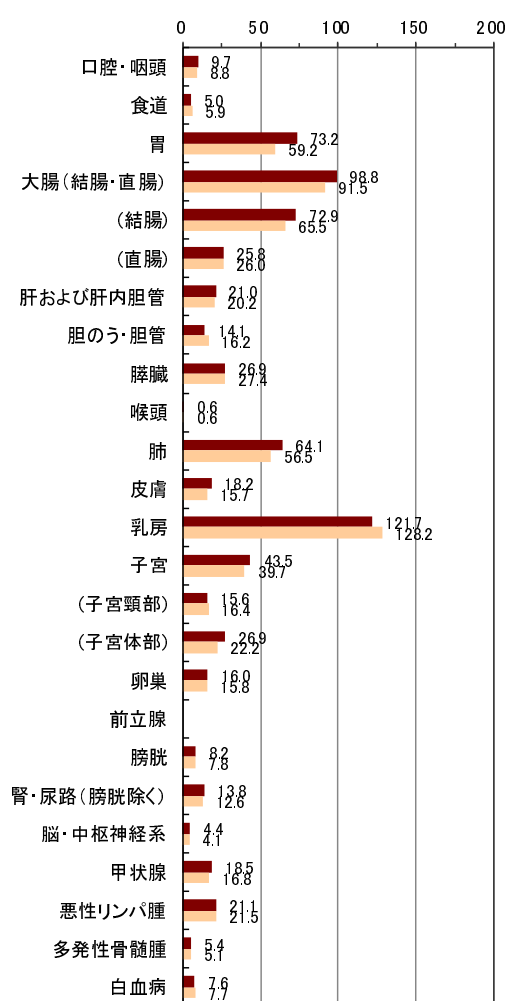
男性



■ 奈良県(2015年)

■ 全国(2015年)

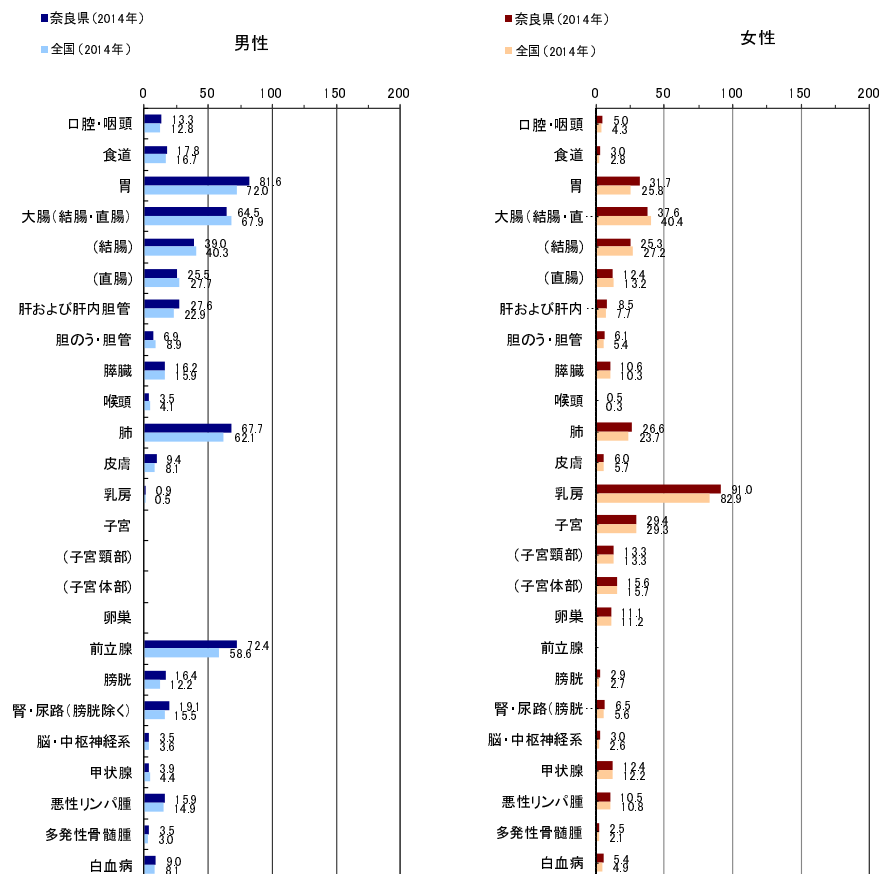
女性



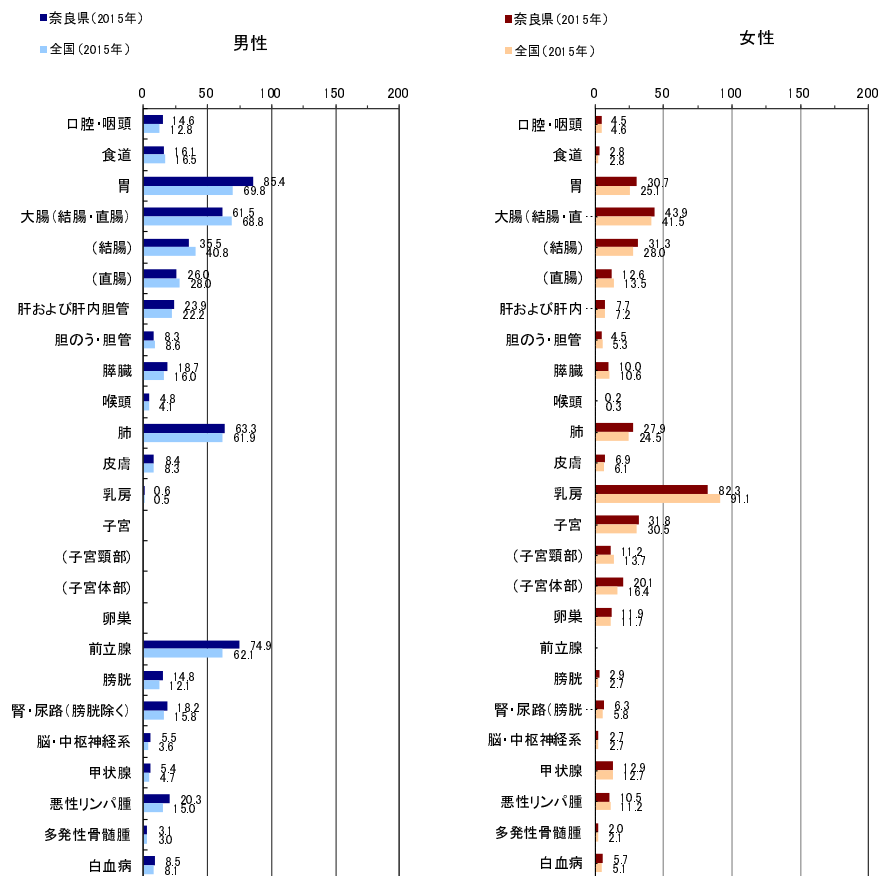
注) 全国の値は、独立行政法人 国立がん研究センターがん対策情報センター発行「全国がん罹患モニタリング集計 2014 年・2015 年罹患数・率報告」より引用

図 10 部位別がん年齢調整罹患率：人口 10 万対（表 1-A から作成）

（2014 年）



（2015 年）

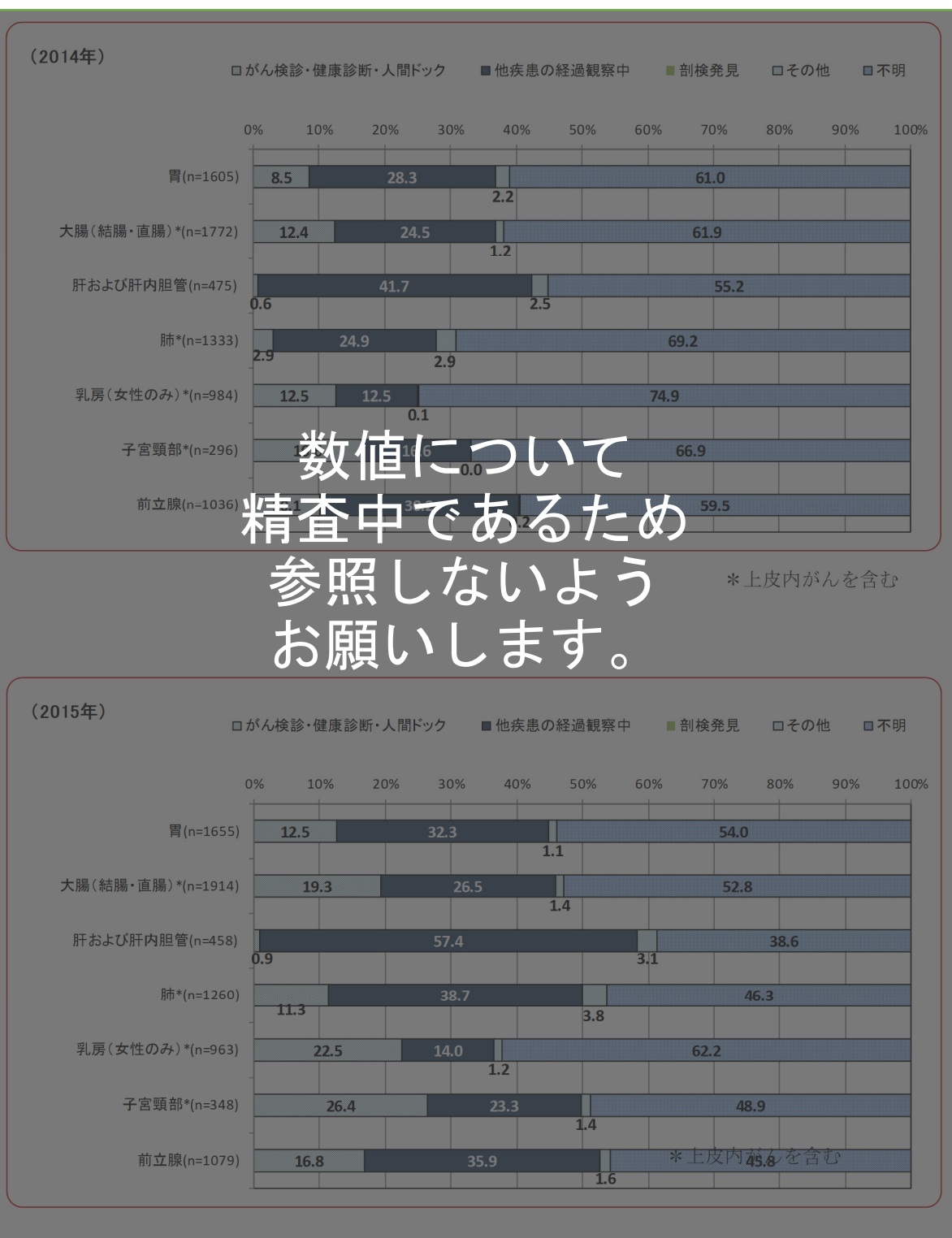


3 受療状況

(1) 発見経緯

国立がん研究センターより、『地域がん登録電子ファイル届出情報を都道府県がん登録室が利用している都道府県がんデータベースにインポートする定義マスタに誤りがあることが発覚、本マスタを適用した届出情報の発見経緯の分類「がん検診・検診・人間ドッグ」が過小に、「その他・不明」が過大に登録されている』との報告あり。現在修正中で、2016年集計より参照できる見込み。

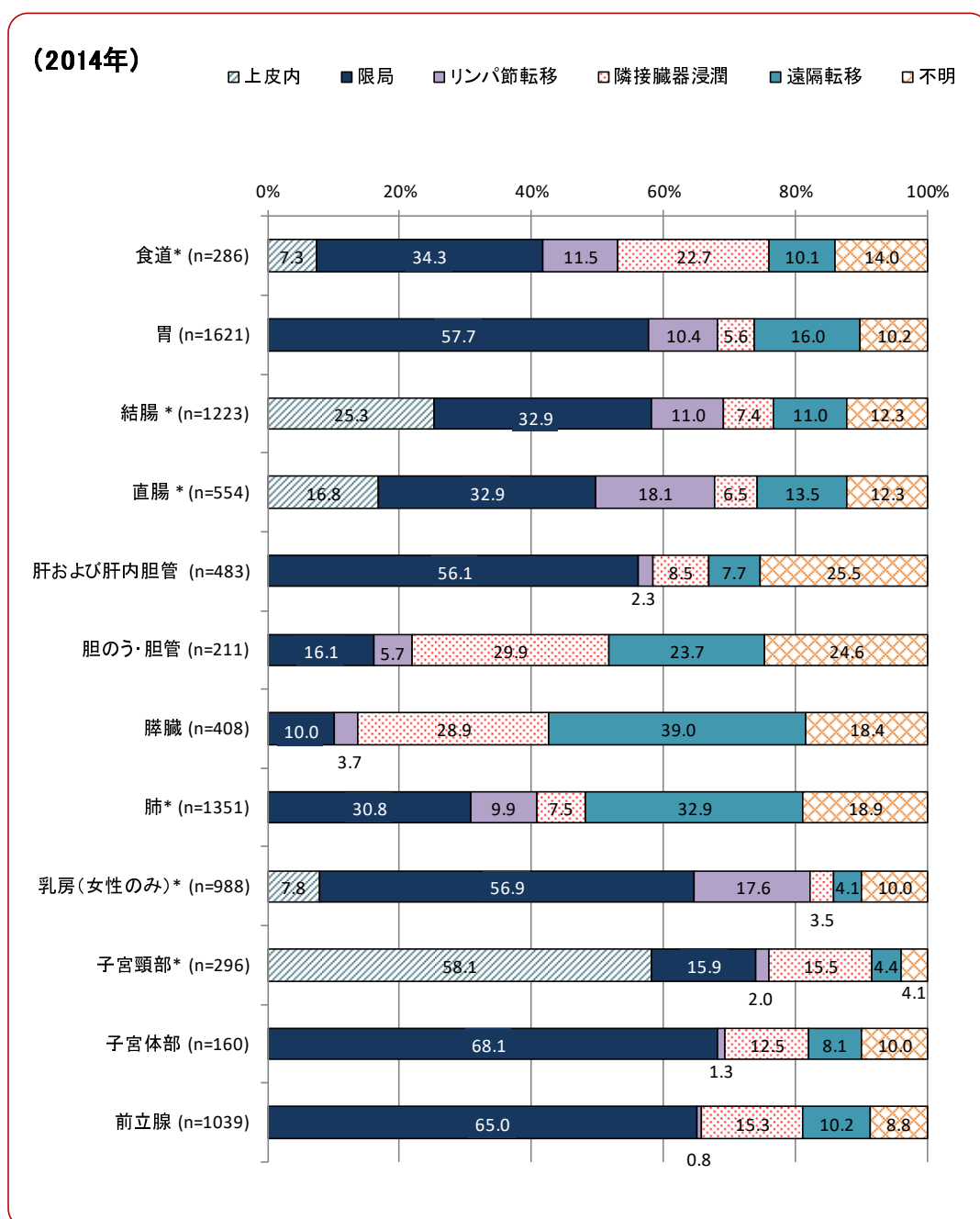
図 1 1 部位別発見経緯 (%)：対象は国内 DC0 を除く届出患者（表 4-A、B から作成）



(2) 病期

2014 年、2015 年共に 胃、結腸、直腸、乳房、子宮、前立腺など、一般的にがん検診が実施されている部位においては、発見時の病期が「上皮内がん」及び「限局」の割合が高い。肺は、がん検診が実施されている部位ではあるが、「遠隔転移」の割合が高い。胆のう・胆管、膵臓のように腫瘍が比較的大きくなるまで自覚症状の出にくい部位では、「遠隔転移」の割合が高い。(図 1 2)

図 1 2 部位別発見時の病期 (%) : 対象は国内 DC0 を除く届出患者 (表 5-1-A、B から作成)



* 上皮内がんを含む。

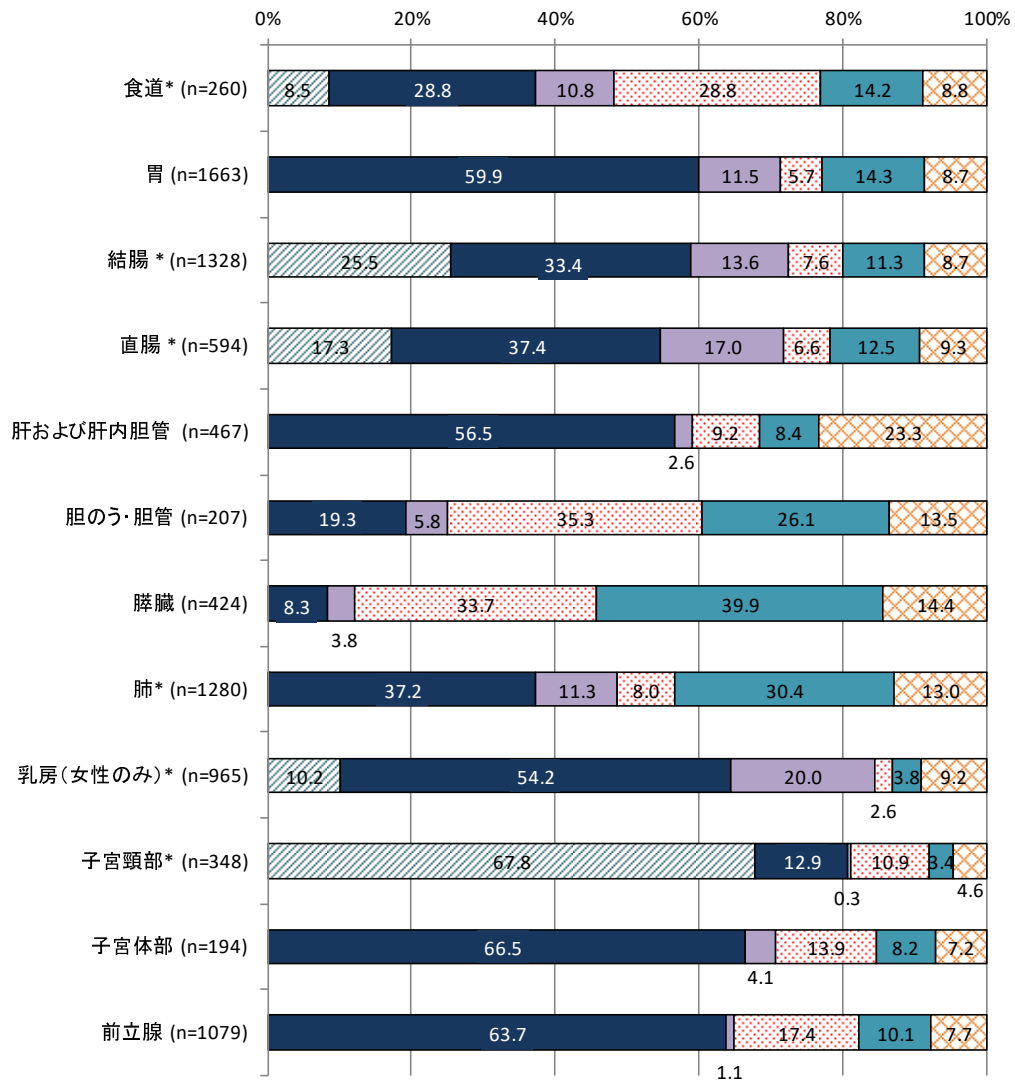
胃の限局には、m がんを含む。

結腸・直腸の上皮内は、m がんまでを指す。

子宮頸部の上皮内は、CIN3 を含む。

(2015年)

□ 上皮内 ■ 限局 ■ リンパ節転移 □ 隣接臓器浸潤 ■ 遠隔転移 □ 不明



* 上皮内がんを含む。

胃の限局には、mがんを含む。

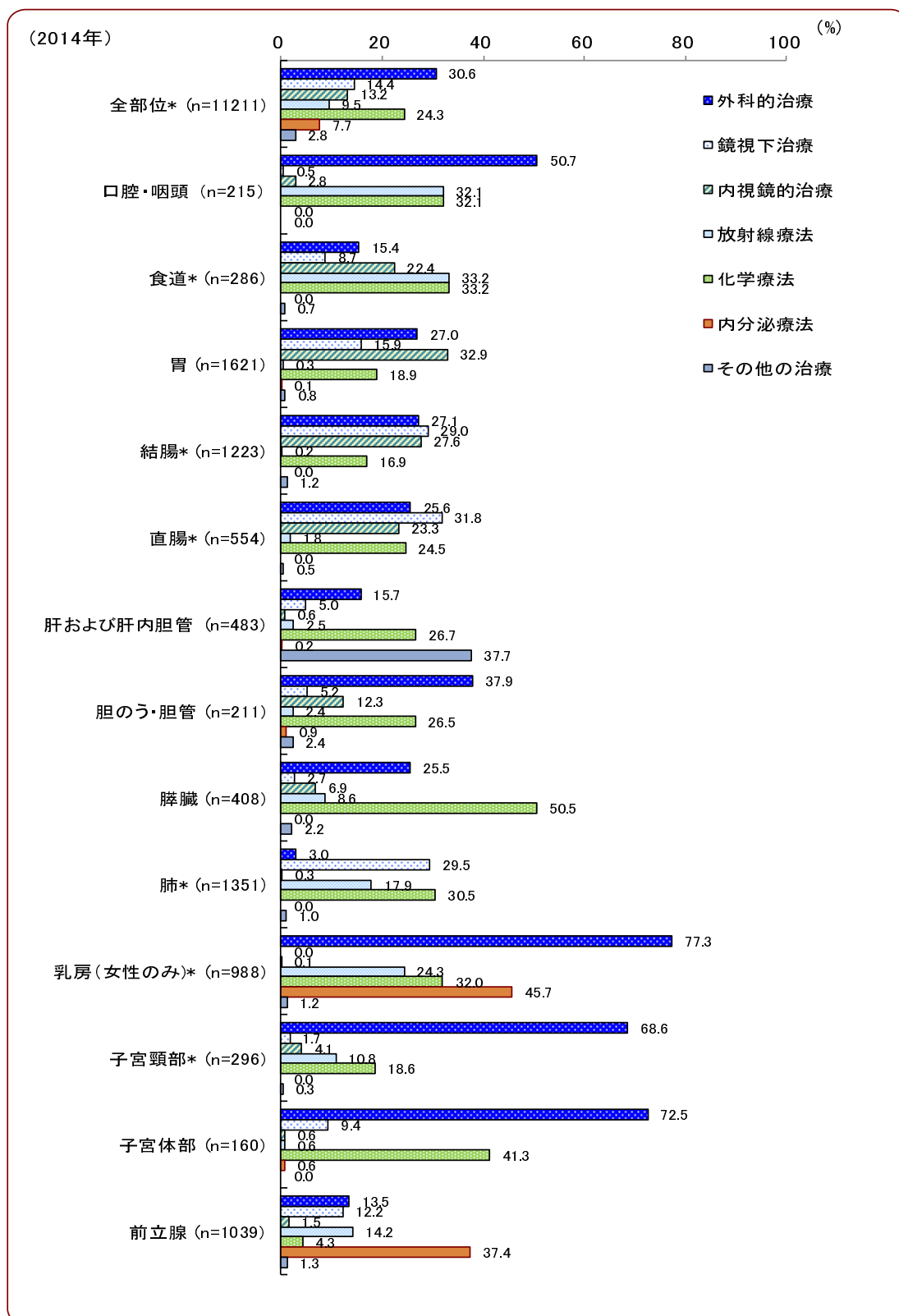
結腸・直腸の上皮内は、mがんまでを指す。

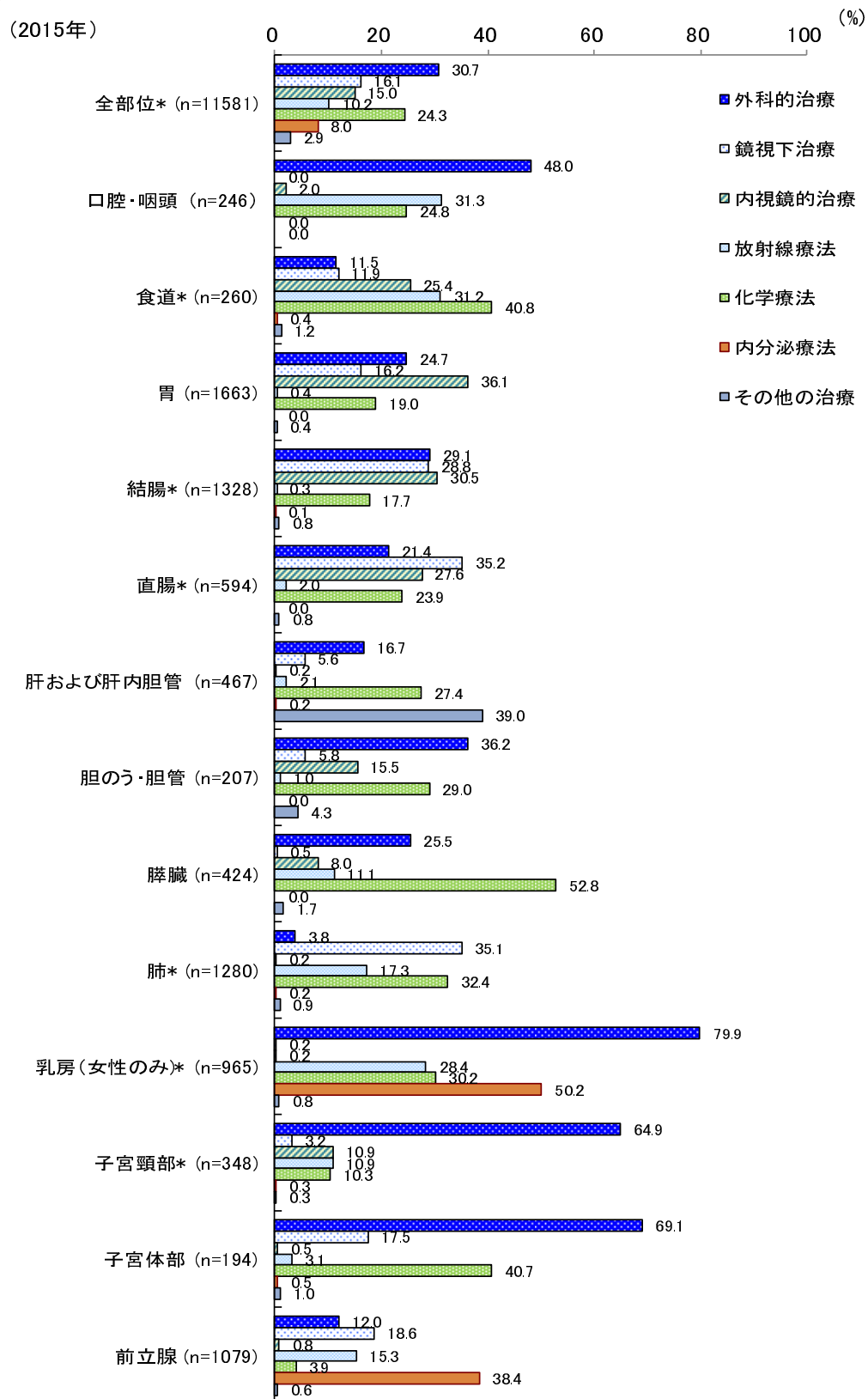
子宮頸部の上皮内は、CIN3を含む。

(3) 初回治療の方法

初回治療の状況について、複数回答であるため、外科的療法、放射線療法、化学・免疫・内分泌療法を組み合わせられていることが考えられるが、口腔・咽頭、乳房、子宮頸部、子宮体部では、外科的療法の割合が高い。口腔・咽頭、食道では放射線療法が、口腔・咽頭、食道、膵臓、肺、乳房、子宮体部では化学療法が多く行われている。(図13)

図13 初回治療の方法(%)：対象は国内DCOを除く届出患者 (表6-A、Bから作成)





* 上皮内がんを含む

4 死亡の状況

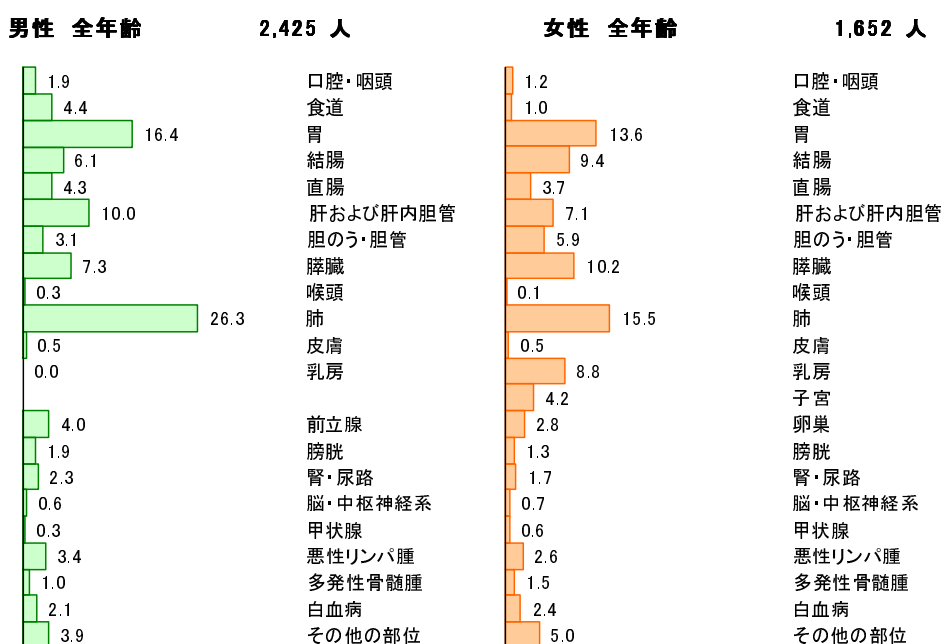
(1) 死亡の概要

奈良県においてがんを原因とした死亡数は、2014 年が男性が 2,425 人、女性は 1,652 人で 2015 年が男性が 2,430 人、女性は 1,619 人であった。

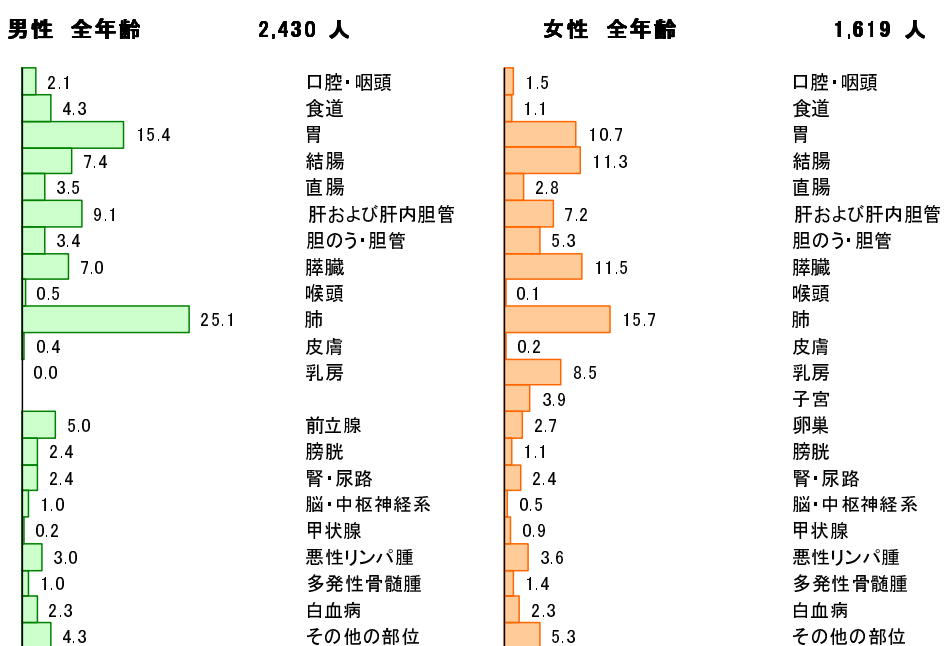
部位別では、男性では、2014 年は肺(26.3%)が一番多く、胃(16.4%)、肝及び肝内胆管(10.0%)の順であった。2015 年も同じく、肺(25.1%)、胃(15.4%)、肝及び肝内胆管(9.1%)の順であった。女性では、2014 年は肺(15.5%)、胃(13.6%)、膵臓(10.2%)の順であった。2015 年は肺(15.7%)、膵臓(11.5%)、結腸(11.3%)の順であった。(図 1 4)

図 1 4 部位内訳 (%) (表 9 から作成)

(2014年)



(2015年)



(2) 年齢別に見たがんの死亡

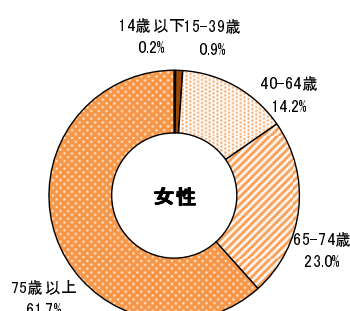
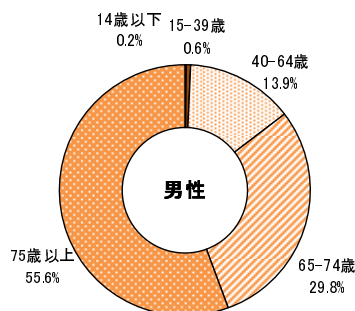
がんで死亡された方について、年齢別にみると、2014 年・2015 年いずれの年も男女ともに 8 割以上が 65 歳以上であった。(図 1 5)

主な部位別の年齢階級別死亡率では、ほとんどの部位において、年齢が高くなると罹患しやすくなるため、年齢とともにがんによる死亡率も高くなっている。(図 1 6)

図 1 5 年齢階級別内訳 (%) (表 10 から作成)

(2014年)

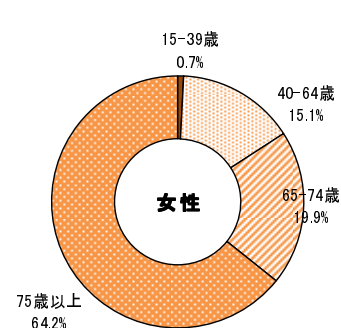
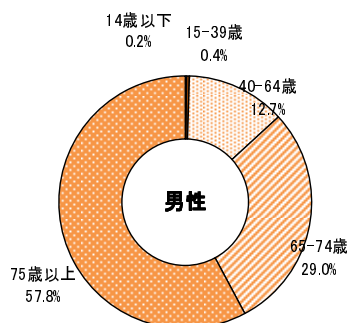
年齢階級	男性(人)
14歳以下	4
15-39歳	14
40-64歳	336
65-74歳	722
75歳以上	1,349
合計	2,425



女性(人)	年齢階級
3	14歳以下
15	15-39歳
235	40-64歳
380	65-74歳
1,019	75歳以上
1,652	合計

(2015年)

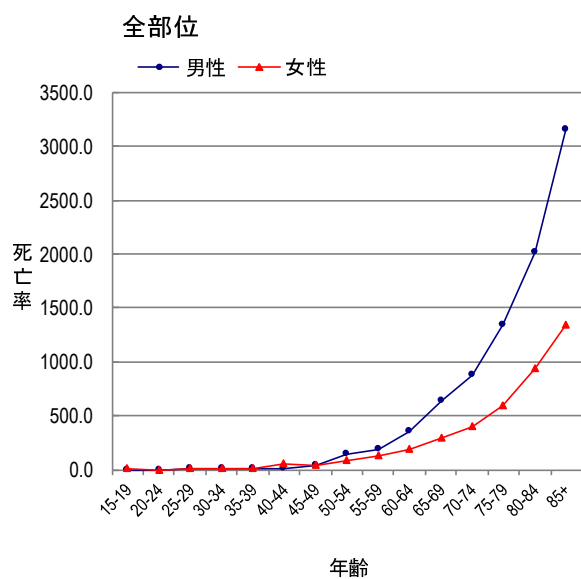
年齢階級	男性(人)
14歳以下	4
15-39歳	9
40-64歳	308
65-74歳	704
75歳以上	1,405
合計	2,430



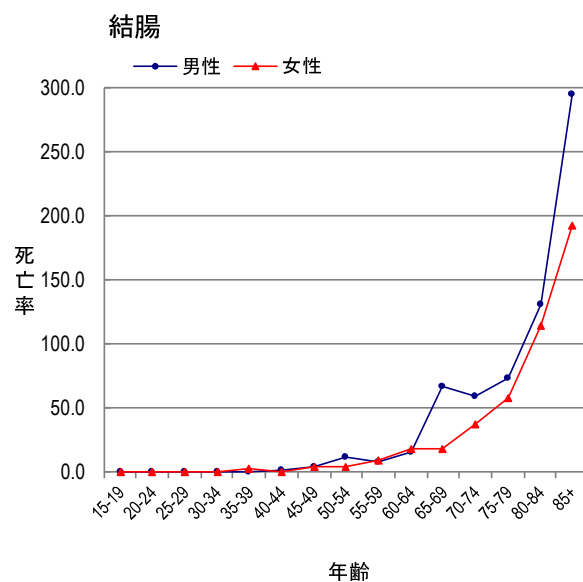
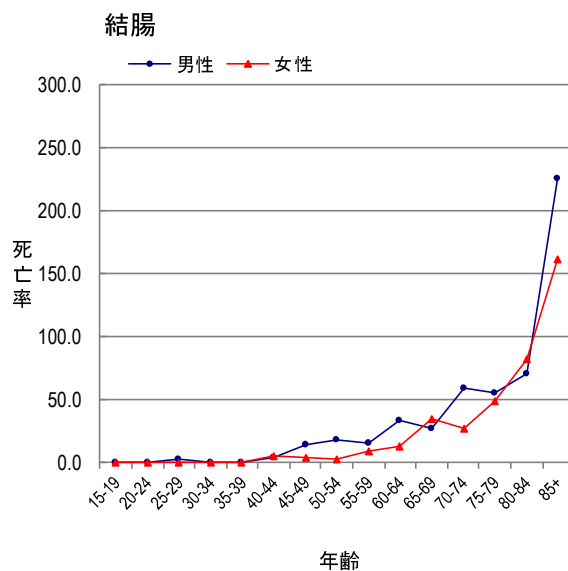
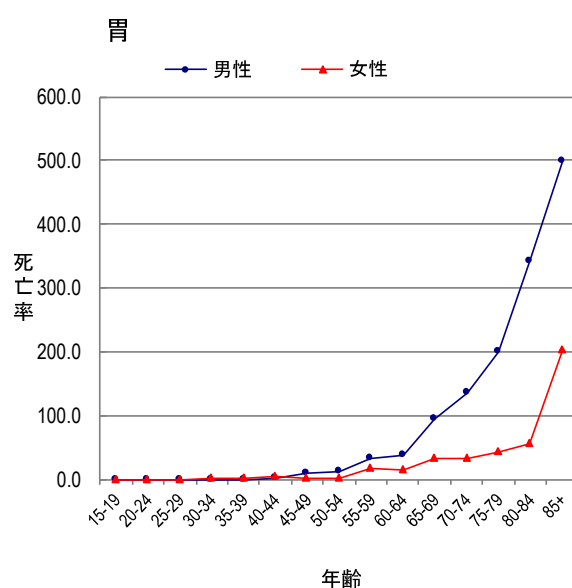
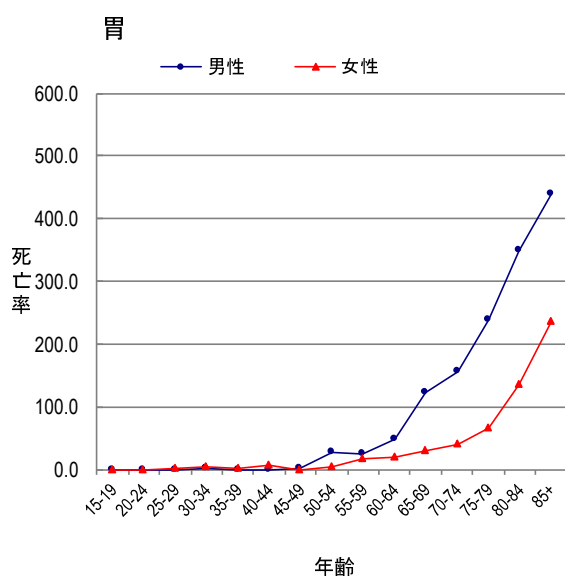
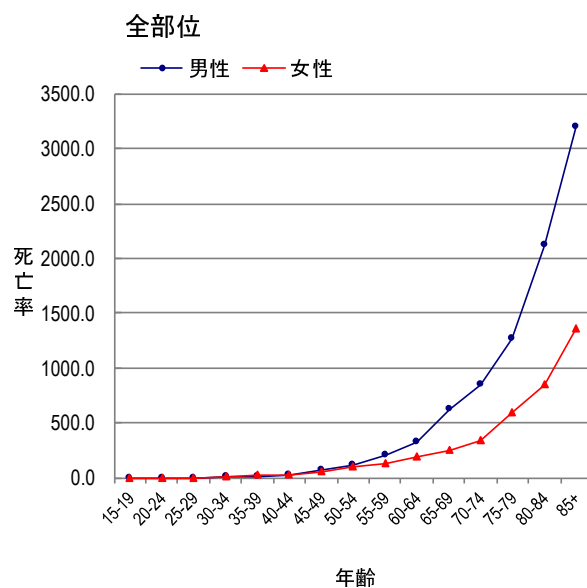
女性(人)	年齢階級
0	14歳以下
12	15-39歳
245	40-64歳
322	65-74歳
1,040	75歳以上
1,619	合計

図 1 6 部位別年齢階級別死亡率：人口 10 万対（表 11 から作成）

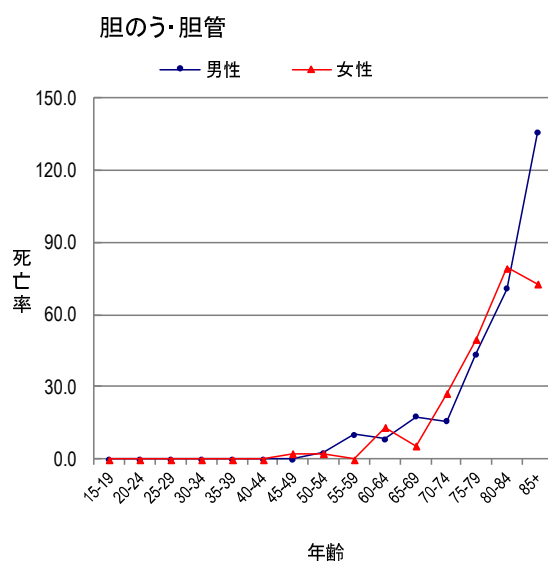
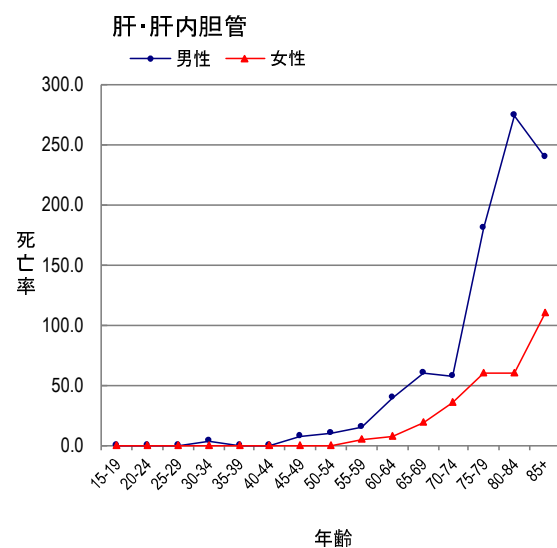
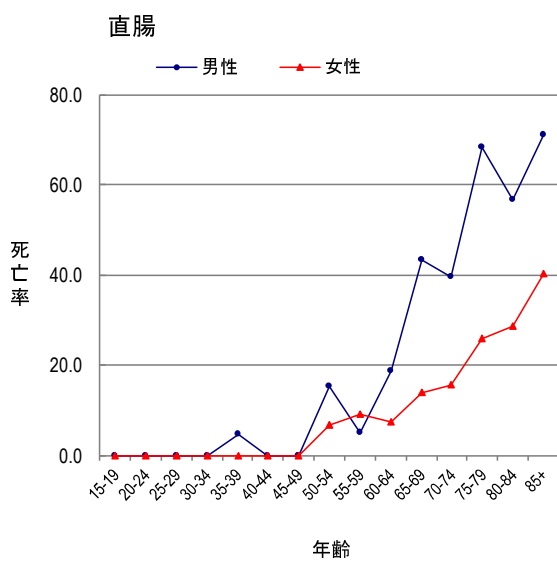
(2014 年)



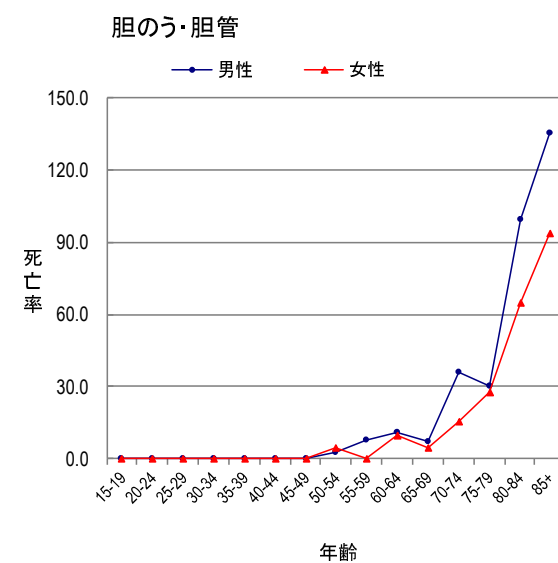
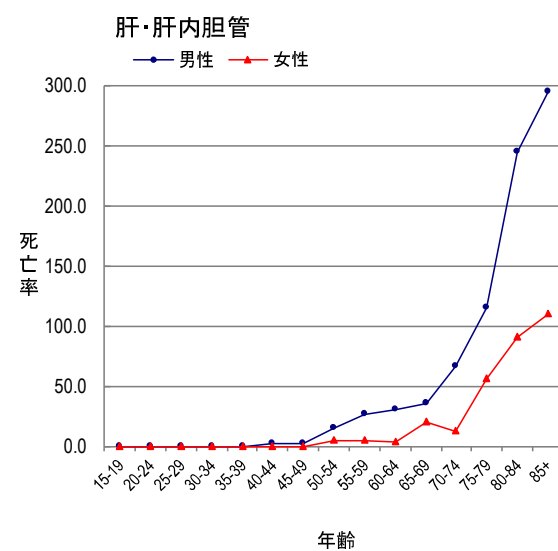
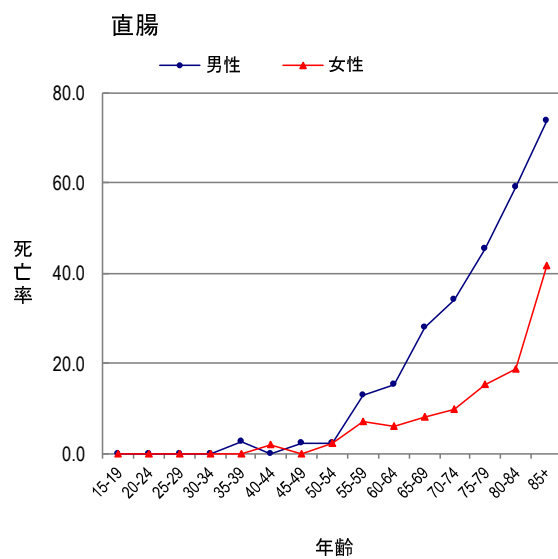
(2015 年)



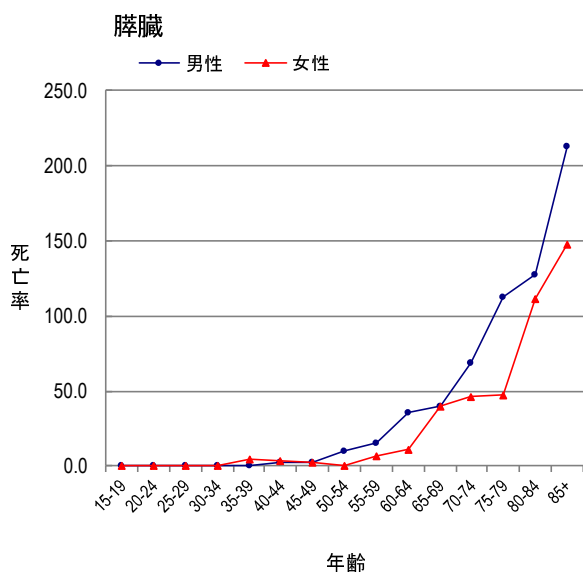
(2014 年)



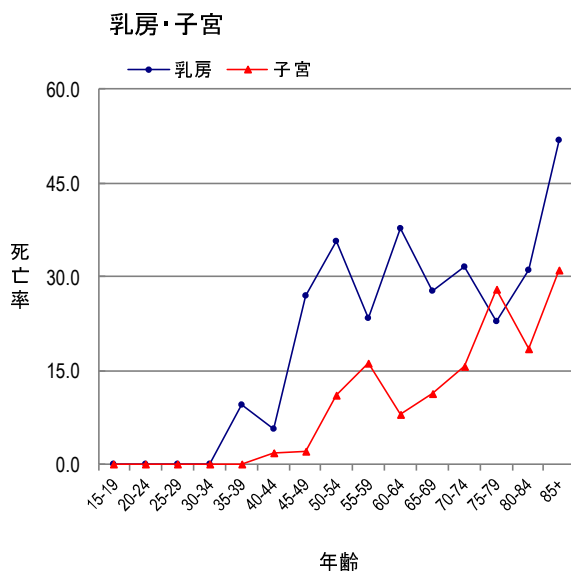
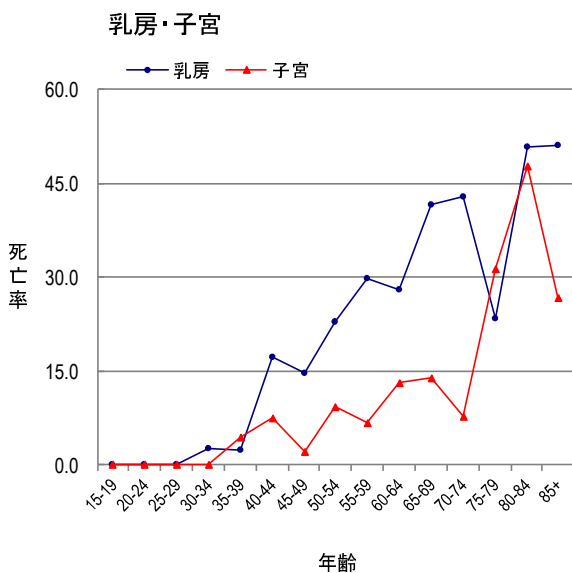
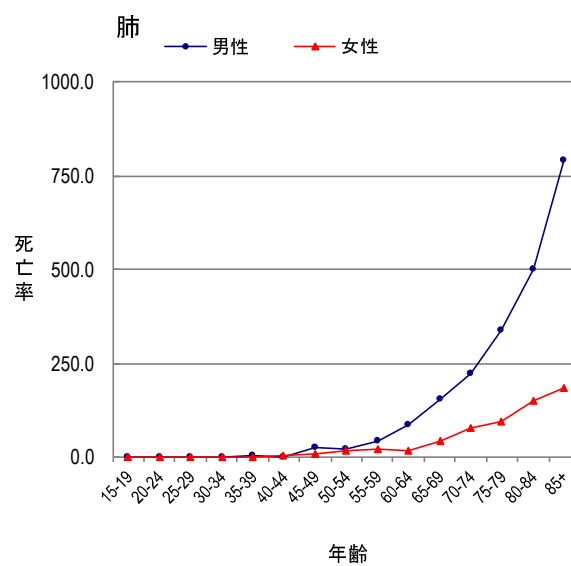
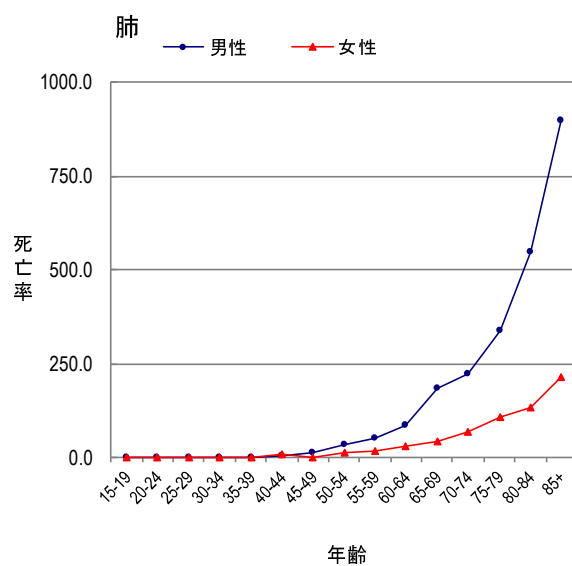
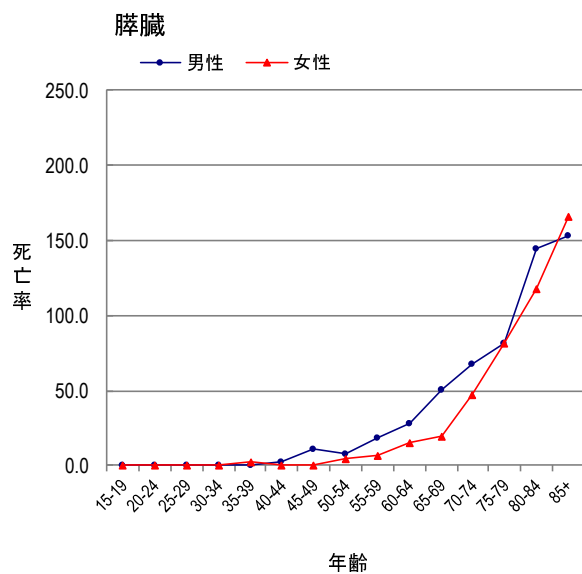
(2015 年)



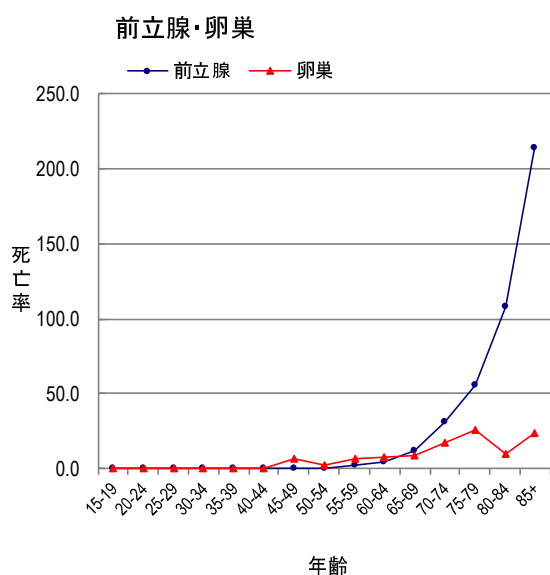
(2014 年)



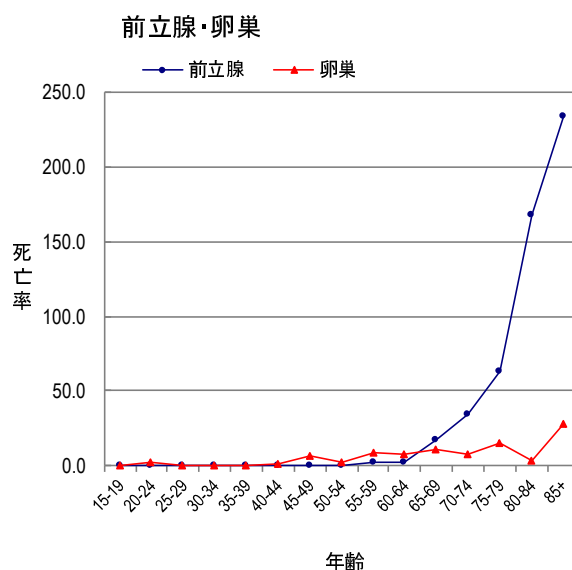
(2015 年)



(2014 年)



(2015 年)

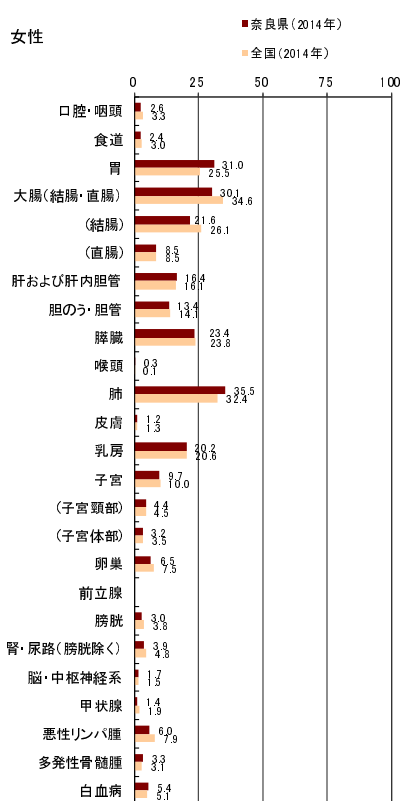
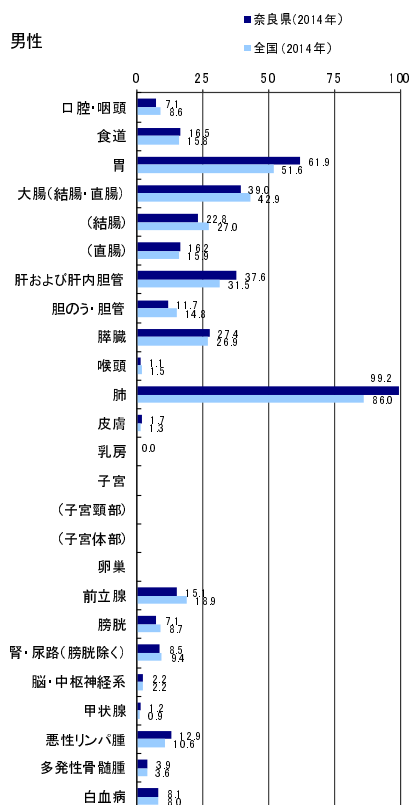


(3) 奈良県のがんの死亡の特徴

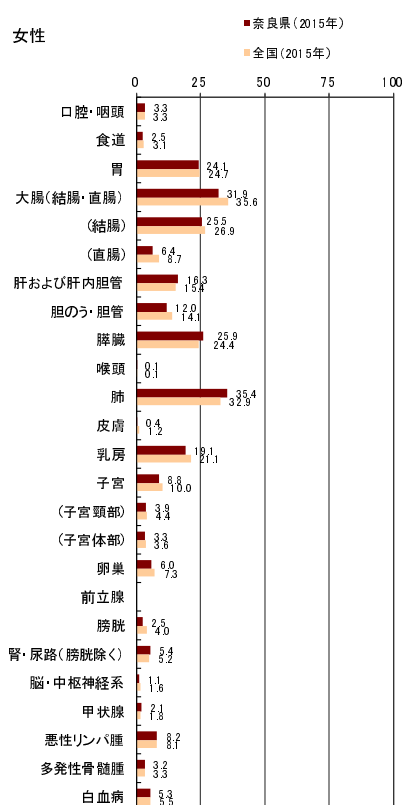
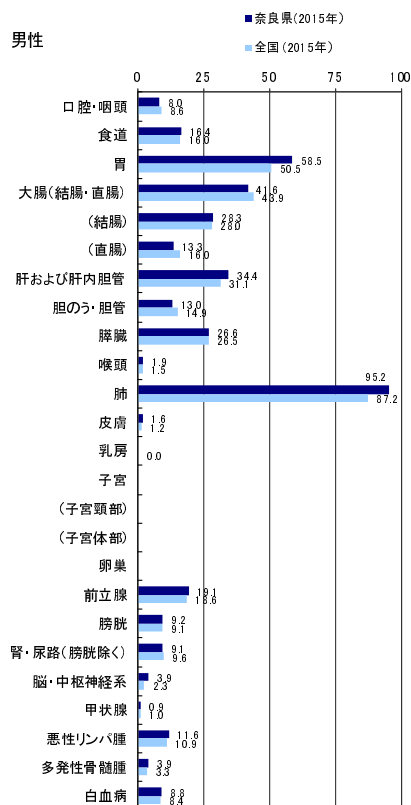
全国値と比較して本県の方が死亡率が高い部位の中で、差が最も大きいのは、男性では、2014 年は肺がん、2015 年では肺がんと胃がんであり、女性では、2014 年は胃がん、2015 年は肺がんであった。(図 1 7) また、反対に、全国値と比較して本県の方が死亡率が低い部位の中で、差が最も大きいのは、男性では、2014・2015 年ともに大腸がんであり、女性も、2014 年・2015 年ともに大腸がんであった。なお、年齢調整死亡率についても、全国値とほぼ同じ傾向にあった。(図 1 8)

図 1 7 部位別がん粗死亡率：人口 10 万対 (表 9 から作成)

(2014 年)



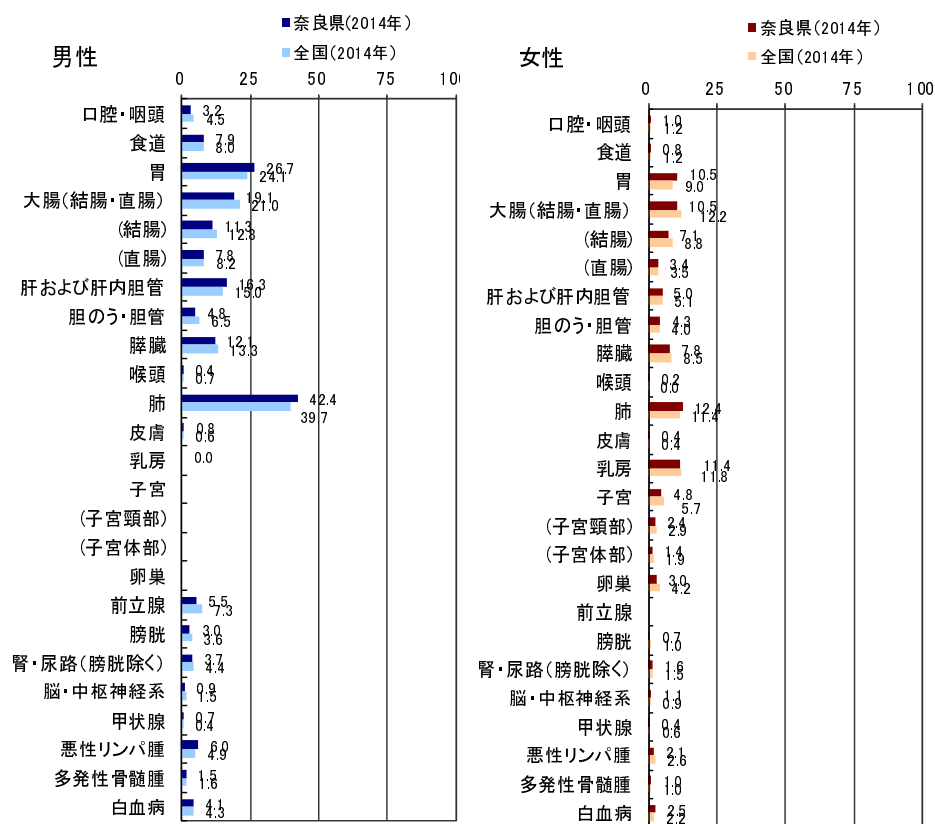
(2015 年)



注) 全国値は、国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」より引用

図 1 8 部位別がん年齢調整死亡率：人口 10 万対 （表 9 から作成）

(2014 年)



(2015 年)

